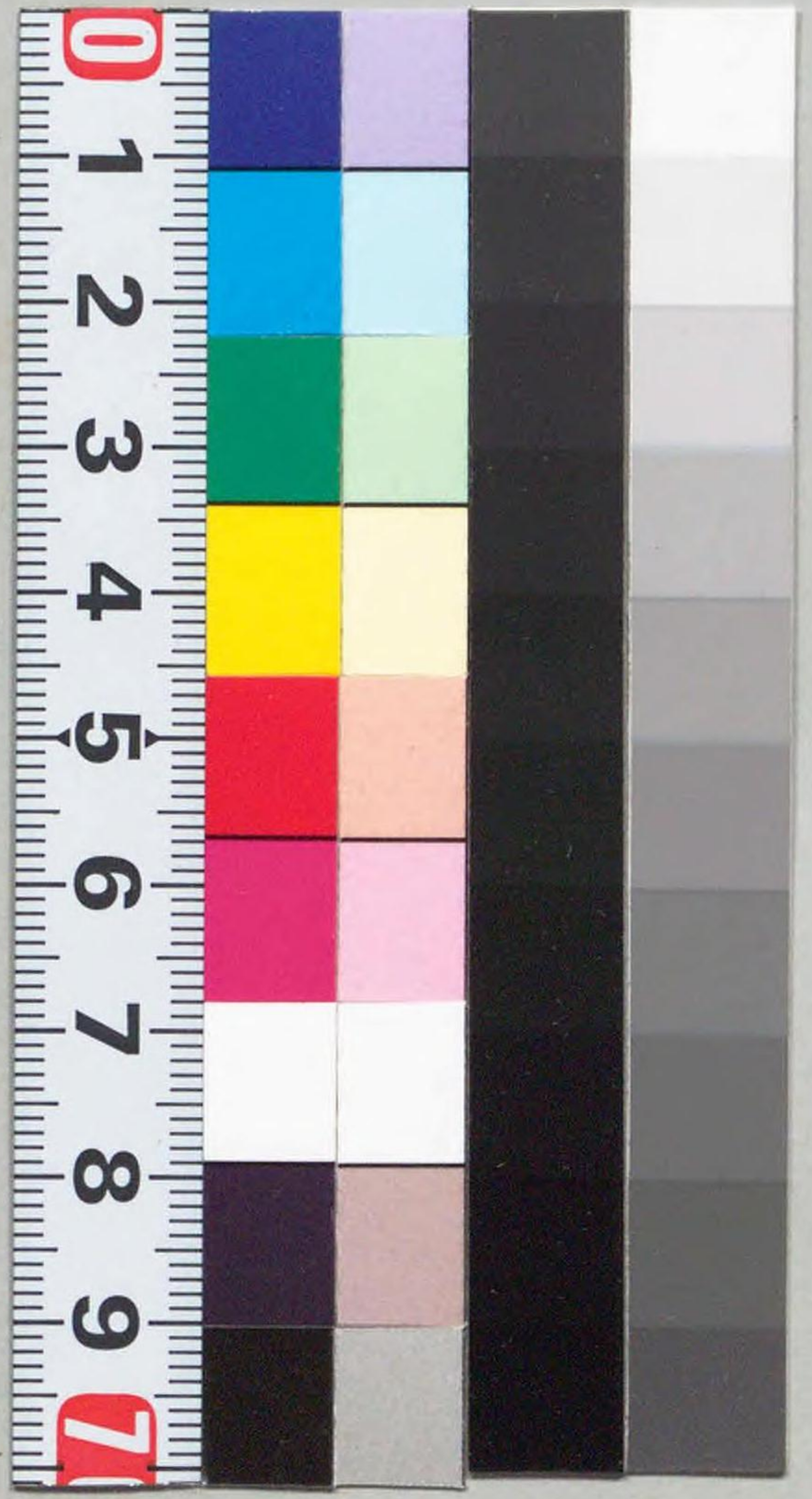


衆
受入番
部
部
配置番

2603
11

衆議院要覽





大正十二年一月

衆議院要覽

上卷

衆議院事務局

3084

衆議院要覽 上卷

凡例

- 一 本書ハ主トシテ衆議院ニ關スル法規ヲ輯録ス
- 一 法規ハ大正十二年一月一日ノ現在ニ據ル

大正十二年一月

衆議院事務局

大正十二年一月

一 總論 大正十二年一月一日ノ發行ニ關スル

一 本書ノ主トシテノ重要事項ニ關スル

八四

衆議院要覽 上卷

衆議院要覽

上卷

目次

五箇條ノ御誓文	一
立憲政體ノ詔書	一
國會開設ノ勅諭	二
憲法發布ノ勅語	三
大日本帝國憲法	三
第一章 天皇	五
第二章 臣民權利義務	七
第三章 帝國議會	九
第四章 國務大臣及樞密顧問	一三
目次	二

第五章 司法.....一三

第六章 會計.....一五

第七章 補則.....一七

議院法.....一九

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會.....一九

第二章 議長書記官及經費.....二〇

第三章 議長副議長及議員歳費.....二二

第四章 委員.....二二

第五章 會議.....二四

第六章 停會閉會.....二六

第七章 秘密會議.....二六

第八章 豫算案ノ議定.....二七

第九章 國務大臣及政府委員.....二八

第十章 質問.....二九

第十一章 上奏及建議.....二九

第十二章 兩議院關係.....三〇

第十三章 請願.....三二

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係.....三四

第十五章 退職及議員資格ノ異議.....三五

第十六章 請假辭職及補闕.....三六

第十七章 紀律及警察.....三七

第十八章 懲罰.....三八

衆議院規則.....四〇

第一章 成立.....四〇

第二章 委員.....四五

第一節 通則.....四五

第二節 全院委員.....四六

第三節 常任委員.....四九

第四節 特別委員	五四
第三章 議員資格審査	五五
第四章 開議散會及延會	五六
第五章 議事日程	五七
第六章 議事	五九
第一節 發議及動議	五九
第二節 讀會	六〇
第三節 討論	六三
第四節 修正	六六
第五節 表決	六八
第六節 豫算會議	七〇
第七章 議事錄決算錄及速記錄	七一
第一節 議事錄	七一
第二節 速記錄	七二

第八章 質問	七三
第九章 上奏建議及議案ノ奏上	七四
第十章 請願	七四
第十一章 請暇及辭職	七七
第一節 請暇	七七
第二節 辭職	七八
第十二章 警察及秩序	七九
第一節 警察	七九
第二節 議場内ノ秩序	八〇
第十三章 傍聽	八一
第十四章 懲罰	八四
第十五章 貴族院ニ對スル關係	八七
法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則	八九
投票ニ關スル規則	八九

兩院協議會規程 八九

衆議院議員選舉法 九二

衆議院議員選舉法施行令 一五七

北海道衆議院議員選舉特例 一六七

衆議院議員選舉區ニ關スル法律 一七三

帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則 一七四

貴族院令 一七九

貴族院伯子男爵議員選舉規則 一八三

貴族院多額納稅者議員互選規則 一八六

貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則 一九〇

貴族院規則 一九三

豫算案議定細則 二三九

決算議定細則 二四二

會計法 二四四

會計規則 二五九

國有財產法 三二八

國有財產法施行令 三三八

國有財產法施行期日 三五六

公式令 三五六

請願令 三六五

皇室典範 三六七

皇室典範增補 (一) 三七七

皇室典範增補 (二) 三七九

攝政令 三七九

宮中席次令 三八〇

内閣官制 三九二

各省官制通則 三九四

樞密院官制及事務規程 三九五

衆議院事務局官制 四〇六

衆議院事務局分掌規程 四〇七

圖書借覽規程 四一〇

衆議院要覽 上卷

○五箇條ノ御誓文(明治元年三月十四日)

一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ

一 上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ

一 官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス

一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ

一 知識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ

我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ 朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

○立憲政體ノ詔書(明治八年四月十四日)

朕即位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ祖宗五箇條ノ御誓文 立憲政體ノ詔書

ノ靈ト群臣ノカトニ頼リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ顧ニ中興日淺ク内治ノ事當ニ振作更張スヘキ者少シトセス朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立憲ノ政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其慶ニ頼ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ル、コト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルコト莫ク其レ能朕カ旨ヲ體シテ翼賛スル所アレ

○國會開設ノ勅諭(明治十四年十月十二日)

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ、中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ、大政ノ統一ヲ總攬シ、又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ、後世子孫繼クヘキノ業ヲ爲サンコトヲ期ス、嚮ニ明治八年ニ、元老院ヲ設ケ、十一年ニ、府縣會ヲ開カシム、此レ皆漸次基ヲ創メ、序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ莫シ、爾有衆、亦朕カ心ヲ諒トセン
顧ミルニ、立國ノ體、國各宜キヲ殊ニス、非常ノ事業、實ニ輕舉ニ便ナラス、我祖我宗、照臨シテ上ニ在リ、遺烈ヲ揚ケ、洪模ヲ弘メ、古今ヲ變通シ、斷シテ之ヲ行フ、實朕カ躬ニ在リ、將ニ明治二十三年ヲ期シ、議員ヲ召シ、國會ヲ開キ、以テ朕カ初志ヲ成サントス、今在廷臣僚ニ命シ、假スニ時

日ヲ以テシ、經畫ノ責ニ當ラシム、其組織權限ニ至テハ、朕親ラ衷ヲ裁シ、時ニ及テ公布スル所アラントス

朕惟フニ、人心進ムニ偏シテ、時會速ナルヲ競フ、浮言相動カシ、竟ニ大計ヲ遺ル、是レ宜シク今ニ及テ誤訓ヲ明徴シ、以テ朝野臣民ニ公示スヘシ、若シ仍ホ故サラニ躁急ヲ爭ヒ、事變ヲ煽シ、國安ヲ害スル者アラハ、處スルニ國典ヲ以テスヘシ、特ニ茲ニ言明シ、爾有衆ニ諭ス

○憲法發布ノ勅語(明治二十二年二月十一日)

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威德ト竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠長ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎順シ相與ニ和衷協同シ益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

○大日本帝國憲法(明治二十二年二月十一日發布)

國會開設ノ勅諭 憲法發布ノ勅語

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シ
タマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿德良能ヲ發達セシムルコトヲ願ヒ又其ノ
翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐
シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循
行スル所ヲ知ラシム

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來此ノ憲法
ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ亨
有テ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムル
ノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜チ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統ノ子孫ハ發
議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫
及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在延ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲
法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之

ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命

憲法發布ノ勅語 大日本帝國憲法(天皇)

ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要

ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セ

サルトキハ政府ハ將來ニ向テ其效力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民

ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以

テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス

但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依

ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任

セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受ク

ルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪

ハル、コトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ

住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、コトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ祕密ヲ侵サ

ル、コトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル

限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ

自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請

願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇

大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサル

モノニ限リ軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各、法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各、其ノ意見ヲ政府ニ

建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セララルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選

舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各、其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ
議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長
ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ
依リ祕密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各、天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整理ニ
必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外

ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其
ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外會
期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラル、コトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言
スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ
重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルルコ

トナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害ス

ルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停

ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定

ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ

訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノ
ハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘ

シ
但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラ

ス
國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約
ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之
ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以

テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各、其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

○議院法(明治二十二年法律第二號 改正三二年第一〇〇號
號三九年第四九號大正五年第四〇號九年第八號)

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各、三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

議院法(帝國議會ノ召集成立及開會)

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ
第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス
第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス
第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但

シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス
第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラ
ル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク
書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス
書記官ノ外他ノ必要ナル職員中判任官以下ハ書記官長之ヲ任ス(大正五

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歲費

第十九條 各議院ノ議長ハ歲費トシテ七千五百圓副議長ハ四千五百圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ二千圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス(明治三十二年法律第百號、大正九年法律第八號改正)

議長副議長及議員ハ歲費ヲ辭スルコトヲ得(明治三十二年法律第百號改正)

官吏ニシテ議員タル者ハ歲費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歲費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議員三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ス但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス
議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若ハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得ス但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ
但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モ
ノハ次ノ會期マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スル
コトヲ得

議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ
前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサル
モノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 祕密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ祕密會議ヲ發議シタルトキハ議
長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用キスシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 祕密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其
ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告ス
ヘシ(明治三十九年法律第四十九號改正)

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ
三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

議院法(停會閉會、祕密會議、豫算案ノ議定)

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ贊成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サ、ルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ

總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ贊成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタル

トキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタル

トキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セサル

トキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ
協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議

會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用キ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス
若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對
シ侮辱ノ語ヲ用キルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ
得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ
得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ

求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向
テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ

議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒ
タルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委
員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院

議院法(議院ト人民及官廳地方議會トノ關係、退職及議員資格ノ異

ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請假辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議

長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

議院法(請假辭職及補闕、紀律及警察)

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用キルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム
- 三 一定ノ時間出席ヲ停止ス
- 四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ
第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得
懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内
ニ召集ニ應セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕
席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發
シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ
於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ
除名スヘシ

○衆議院規則(明治二十三年十二月一日議決 改正二十三年一月二日、同年
同月一九日、二十四年一月二七日、同年一月五日、二八年
二月五日、三五年一月二日、三七年一月二日)

一月、大正九年七月二八日、一〇年一月二七日)

第一章 成立

第一條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ノ午前九時衆議院ニ集會ス
ヘシ

第二條 集會シタル議員ハ當選證書ト俱ニ名刺ヲ事務局ニ通スヘシ書記
官ハ當選人名簿ニ各員ノ當選證書ヲ對照スヘシ

第三條 午前十時ニ至リ集會者總議員三分ノ一ニ充チタルトキハ議員ハ
議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ

第四條 議長候補者ノ選舉ハ無名投票ヲ以テシ候補者三名ヲ連記スヘシ

第五條 議員ハ點呼ニ應シ議長席ノ前ニ設ケタル投票函ニ投票ヲ投入シ
其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ

現在議員投票ヲ終リタルトキハ書記官長ハ投票函ノ閉鎖ヲ宣告スヘシ
閉鎖宣告ノ後ハ投票スルコトヲ許サス

第六條 投票終リタルトキハ書記官長、書記官ト俱ニ議員ノ面前ニ於テ

投票ノ數ヲ計算シ投票ノ數名刺ノ數ニ超過シタルトキハ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第七條 投票ノ點檢終リタルトキハ書記官長各候補者ノ得點ヲ議員ニ報告シ投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

第八條 投票ノ過半数ヲ得タル者ナキトキ又ハ過半数ヲ得タル者三人ニ滿タサルトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者ニ就キ選舉スヘキ定員ノ倍數ヲ取り決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 當選人ニシテ當選ヲ辭スル者アルトキハ更ニ其ノ選舉ヲ行フヘシ

第十條 議長候補者ノ選舉終リタルトキハ副議長候補者ノ選舉ヲ行フヘシ

シ

副議長候補者ノ選舉ハ議長候補者選舉ノ例ニ同シ

第十一條 議長候補者ハ副議長候補者ニ選舉セラルルコトヲ得

第十二條 選舉ニ付キ疑義ヲ生スルトキハ書記官長ハ集會シタル議員ニ諮ヒ之ヲ決スヘシ

第十三條 議長副議長ノ候補者定マリタルトキハ書記官長ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

第十四條 議長副議長任命ノ翌日午前九時議員ハ議場ニ集會スヘシ書記官長ハ議長及副議長ヲ議院ニ紹介シ議長ヲ導キテ議長席ニ著カシムヘシ

第十五條 議員ノ議席ハ每會期ノ始ニ於テ議長之ヲ定ム但シ必要ト認ムルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

議席ニハ各號數ヲ付ス(明治三十七年十二月一日改正)

第十六條 議長ハ議場ニ於テ議員ノ議席ヲ報告シタル後書記官ヲシテ抽籤セシメ議員ノ部屬ヲ定ム(明治三十七年十二月一日改正)

第十七條 議員ノ部屬ハ每會期ニ之ヲ定メ各部ニ號數ヲ付ス

總議員ヲ九部ニ配分シ均分スルコト能ハサルトキハ第一部ヨリ以下每部一員ヲ加フヘシ

議長副議長ハ部員ノ中ニ入ラス

第十八條 臨時會ニ於テハ前會ノ議席及部屬ヲ繼續スヘシ

第十九條 各部ハ年長部員ヲ以テ管理者トシ無名投票ヲ以テ部員中ヨリ部長一名ヲ互選シ其ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

最多數ヲ得タル者同數者二人以上アルトキハ年長ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十條 部長ハ部ノ事務ヲ整理ス

第二十一條 各部ハ部員中ヨリ理事一名ヲ互選ス
理事ノ互選ハ部長互選ノ例ニ同シ

第二十二條 理事ハ部長ヲ輔ケ部長故障アルトキハ之ヲ代理スヘシ

第二十三條 議席及部屬定マリタルトキハ議長ハ議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二十四條 議員一任期ノ第二會期以下ニ於テハ召集ノ期日午前十時ニ至リ議員總數三分ノ一ニ充チタルトキハ議席及部屬ヲ定メタル後議院成立ノ由ヲ政府及貴族院ニ通報スヘシ

第二章 委員

第一節 通則

第二十五條 委員ノ審査ハ議院ノ付託シタル事件ノ外ニ涉ルコトヲ得ス

第二十六條 委員ハ委員會ニ於テ同一事件ニ付キ幾回タリトモ發言スル
コトヲ得

第二十七條 委員長ハ委員會ノ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第二十八條 委員會ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルト

キハ委員長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 委員長自ラ討議ニ與カラムトスルトキハ委員中ヨリ代理者

ヲ指名シ委員長席ニ著カシムヘシ

第二節 全院委員

第三十條 全院委員長ノ選舉ハ無名投票ヲ以テ之ヲ行ヒ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス

過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ノ投票ヲ得タル者二人ニ就キ更ニ
決選投票ヲ行ヒ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス(明治二十三年十月
二月二日改正)

同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

選舉ニ付異議ヲ生スルトキハ議長之ヲ議院ニ諮ヒテ定ムヘシ

第三十一條 全院委員長故障アルトキハ第一部長其ノ職務ヲ行ヒ第一部長亦故障アルトキハ順次ニ第二部長以下之ヲ行フ

第三十二條 全院委員會ハ議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ討論ヲ用キス議院ノ決議ヲ以テ之ヲ開ク

第三十三條 全院委員會ヲ開クコトヲ議決シタルトキハ即時ニ開會スヘシ

即時ニ開會セサルノ議決ヲ爲シタルトキハ議長ハ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第三十四條 全院委員會ヲ開クトキハ議長其ノ席ヲ退クヘシ
委員長ノ席ハ書記官長ノ席ヲ以テ之ニ充ツ

第三十五條 全院委員會ニ於ケル動議ハ一人以上ノ贊成ニ依リ議題ト爲スヘシ

第三十六條 全院委員會ハ自ラ其ノ規則ヲ議決スルコトヲ得ス

第三十七條 全院委員會議事ヲ終ルトキハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第三十八條 全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若議事終局セサルト

キハ委員長ハ議長ノ復席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議院ニ報告スヘシ

此ノ場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ

第三十九條 全院委員會ニ於テ議院法若ハ議院規則ニ違ヒ議場ノ秩序ヲ

紊ル者アルトキハ議長ハ委員長ノ請求ヲ待タス其ノ席ニ復シ委員會ヲ解クコトヲ得

第四十條 全院委員會ノ議決スルコトヲ得サル事件生スルトキハ委員

長ハ議長ノ復席ヲ求メ其ノ席ヲ退クヘシ

第四十一條 全院委員會ニ於テハ書記官書記官長ノ職務ヲ行フ

第三節 常任委員

第四十二條 議院ハ每會期ノ始ニ於テ左ニ列記スル常任委員ヲ選舉ス

- 一 豫算委員 六十三人
- 二 決算委員 四十五人
- 三 懲罰委員 二十七人
- 四 請願委員 四十五人

(明治二十四年十一月二十七日、同二十八
年二月五日、同三十五年十二月十日改正)

其ノ他議員ノ動議ニ依リ議院ニ於テ必要ト認ムルモノ

第四十三條 常任委員ハ各部ニ於テ無名投票ヲ以テ總議員中ヨリ選舉シ
最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ
以テ之ヲ定ム

各常任委員ヲ選舉スルハ議院ノ命スル所ニ依リ各部同一日時ニ於テス
ヘシ

第四十四條 各部ニ於テ當選人定マリタルトキハ部長ハ之ヲ議長ニ報告
スヘシ

第四十五條 數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ其ノ所屬部ノ當選人トス所屬
部ノ外ニ於テ數部ノ選舉ニ當選シタル者ハ部號ノ順序ニ從ヒ其ノ當選
人トス

第四十六條 前條又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ
其ノ選舉シタル部ニ於テ補闕選舉ヲ行フヘシ

第四十七條 委員ニ選舉セラレタル者ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ任ヲ辭
スルコトヲ得ス

第四十八條 委員長ハ無名投票ヲ以テ互選シ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當

當選人トス

同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條 委員會ハ無名投票ヲ以テ委員中ヨリ一名又ハ數名ノ理事ヲ
互選シ委員會議録及其ノ他文書ノ事ヲ掌ラシム委員長故障アルトキハ
理事之ヲ代理スヘシ但シ會議録及其ノ他文書ノ事ハ書記官ヲシテ之ヲ
掌ラシムルコトヲ得

第五十條 議院ニ於テ委員會ノ期日ヲ指定セサルトキハ委員長之ヲ定
ム

第五十一條 委員會ハ議院ノ會議時間ニ於テ之ヲ開クコトヲ得ス但シ議
院ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 委員會ハ其ノ付託ヲ受ケタル事件ニ關シ意見ヲ有スル議員
アルトキハ其ノ意見ヲ聞クコトヲ得

第五十三條 議員委員會議錄及其ノ他參考文書ノ閱覽ヲ求ムル者アルトキハ審査ノ障碍ヲ生セサル限ハ之ヲ許スヘシ但シ議院ノ外ニ携帶スルコトヲ許サス

第五十四條 委員會ノ審査終ルトキハ報告書ヲ作り委員長ヨリ議長ニ提出スヘシ

委員會ノ決議ニ依リ委員長ハ口述ヲ以テ報告スルコトヲ得但シ議院ハ文書ノ報告ヲ求ムルコトヲ得

委員長ハ委員會ノ決議ヲ經テ其ノ報告ヲ他ノ委員ニ倚託スルコトヲ得議長ニ於テ特ニ祕密ト認ムル者ノ外委員會ノ報告書ハ印刷シテ豫メ之ヲ議員ニ配付スヘシ

第五十五條 議院ハ期限ヲ定メ委員會ヲシテ審査ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五十六條 委員會故ナク其ノ報告ヲ遲延スルトキハ議院ハ改メテ他ノ委員ヲ選任スルコトヲ得

第五十七條 委員會ニ於テ少數ヲ以テ廢棄セラレタル意見ヲ議院ニ提出セムト欲スル者出席委員三分ノ一ニ及フトキハ委員會ノ報告ト俱ニ其ノ意見書ヲ提出スルコトヲ得

第五十八條 委員會ハ委員會議錄ヲ作り出席者ノ氏名表決ノ數決議ノ要領及其ノ他重要ノ事件ヲ記載スヘシ

第五十九條 委員會議錄ハ委員長及理事之ニ署名シ事務局ニ保存スヘシ第六十條 政府ニ返付スヘキ文書及所有主アルモノヲ除ク外委員ノ用ニ供シタル文書ハ其ノ任務ヲ終ヘタル後之ヲ事務局ニ保存スヘシ

第六十一條 豫算委員決算委員及請願委員ハ其ノ事務ヲ捷速ナラシムル爲ニ分テ數科ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ各科ニ主査ヲ互選スヘ

シ(明治二十八年二月五日改正)

各科主査ハ議院ニ於テ委員長ノ報告ヲ補助スルコトヲ得

第四節 特別委員

第六十二條 特別委員ノ數ハ九名トス但シ付託事件ノ種類ニ由リ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ増加スルコトヲ得

第六十三條 特別委員ハ議院ニ於テ無名投票ヲ以テ連記選舉シ最多數ヲ得タル者ヲ當選人トス同數者二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
議院ハ特別委員ノ選舉ヲ議長又ハ各部ニ委任スルコトヲ得

第六十四條 議院ハ特別委員ニ付託シタル事件ニ連繫スル他ノ事件ヲ併セテ之ニ付託スルコトヲ得

第六十五條 議院ハ特別委員ノ報告ヲ受クルノ後更ニ其ノ事件ヲ同一委員ニ付託シ又ハ他ノ委員ニ付託スルコトヲ得

第六十六條 第四十七條ヨリ第六十條ニ至ルマテノ規定ハ本節ニ適用ス

第三章 議員資格審査

第六十七條 議員他ノ議員ノ資格ニ對シ異議ヲ申立ツル者ハ異議申立書及其ノ副本一通ヲ作り署名シテ之ヲ議長ニ差出スヘシ

議長ハ申立書ヲ資格審査委員ニ付シ及其ノ副本ヲ被告議員ニ送達シ期日ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムヘシ

被告議員天災事變及疾病ニ因リ期日內ニ答辯書ヲ差出スコト能ハサリシコトヲ證明スルトキハ議長ハ更ニ期日ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

第六十八條 議長被告議員ノ答辯書ヲ受取リタルトキハ資格審査委員ニ付シ時日ヲ期シテ之ヲ審査セシムヘシ

第六十九條 被告議員期日內ニ答辯書ヲ差出サ、ルトキハ資格審査委員

衆議院規則(特別委員議員資格審査)

ハ直チニ審査ノ結果ヲ報告スルコトヲ得

第七十條 資格審査委員ハ必要ト認ムルトキハ議長ヲ經由シテ申立議員及被告議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第七十一條 委員其ノ審査報告ヲ議長ニ提出シタルトキハ議長之ヲ各議員ニ配付シタル後院議ニ付スヘシ

第七十二條 被告議員ハ自ラ議院ニ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第四章 開議散會及延會

第七十三條 會議ハ通常午後一時ニ始ム

第七十四條 議事日程ニ掲ケタル議事ヲ終リタルトキハ議長ハ議院ニ諮ハスシテ散會ヲ宣告ス議事未タ終ラサルモ午後六時ニ至ルトキハ議長ハ延會ヲ宣告スルコトヲ得但シ緊急ノ議事ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 議事開始ノ時刻ニ至ルトキハ議長其ノ席ニ著キ諸般ノ通信ヲ報告シテ後ニ會議ヲ開クコトヲ宣告ス

議長開議ヲ宣告セサル間ハ何人モ議事ニ付發言スルコトヲ得ス

第七十六條 出席議員若シ定數ニ充タサルトキハ議長ハ相當ノ時間ヲ經テ之ヲ計算セシメ計算二回ニ至リ仍定數ニ充タサルトキハ延會ヲ宣告スヘシ

第七十七條 議長散會延會又ハ中止ヲ宣告シタル後ハ何人モ議事ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第五章 議事日程

第七十八條 議長ハ會議ノ終ニ於テ次會ノ議事日程ヲ議院ニ報告スヘシ

第七十九條 凡テ議院ノ會議ニ付スヘキ事件及次序竝開議ノ日時ハ之ヲ議事日程ニ記載スヘシ

第八十條 議事日程ハ官報ニ掲載シ及議員ニ配付スヘシ

第八十一條 議事日程ニ某議案ノ會議時刻ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ時刻ニ至リタルトキハ議長ハ會議中ノ議事ヲ中止シテ時刻ヲ定メタル事
件ノ會議ニ移ルヘシ

第八十二條 議事日程ニ記載シタル事件アルニ拘ラス他ノ緊急事件ニ付
キ開議ノ動議ヲ起ス者アルトキ又ハ議長自ラ緊急事件ト認ムルトキハ
討論ヲ用キスシテ議院ニ諮ヒ議事日程ヲ變更スルコトヲ得

第八十三條 議事日程ニ指定シタル日ニ於テ其ノ記載事件ノ會議ヲ開ク
コト能ハサルトキ又ハ會議終局ニ至ラサルトキハ議長ハ更ニ其ノ日程
ヲ定ムヘシ

第八十四條 貴族院ニ於テ既ニ會議ニ付シタル議案ト同一ナル事件ヲ議
事日程ニ記載スルコトヲ得ス但シ兩議院ノ議決ヲ要セサルモノハ此ノ

限ニ在ラス

第八十五條 貴族院ヨリ提出シタル議案ハ政府ヨリ提出シタル議案ニ次
キ議事日程ヲ記載スヘシ

第六章 議事

第一節 發議及動議

第八十六條 議員法律案又ハ上奏案建議案ヲ發議セムトスル者ハ其ノ案
ヲ具ヘ理由ヲ付シ定規ノ贊成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ差出シ議長
ハ印刷シテ之ヲ各議員ニ配付スヘシ

第八十六條ノ二 決議ノ動議ハ二十人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲ス
ヘシ(大正十年十二月二十七日改正)

第八十七條 議院法及此ノ規則ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外凡ソ
動議ハ一人以上ノ贊成者ヲ待チテ議題ト爲スヘシ

第二節 讀會

第八十八條 第一讀會ハ議案ヲ各議員ニ配付シタル後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ緊急事件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十九條 第一讀會ニ於テ議案ヲ朗讀シタル後國務大臣政府委員又ハ發議者ハ其ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

議員ハ議案ニ對シ疑義アルトキハ國務大臣政府委員又ハ發議者ニ説明ヲ求ムルコトヲ得

議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第九十條 前條ノ手續ヲ終リタルトキハ政府又ハ貴族院ヨリ提出シタル議案ハ之ヲ委員ニ付託スヘシ

議院ハ委員ノ報告ヲ待チ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

議員ヨリ提出シタル議案ハ大體ニ付キ討論シタル後第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ若シ委員ニ付託スルノ動議アリテ之ヲ可決シタルトキハ其ノ報告ヲ待チ第二讀會ヲ開クヘキヤ否ヲ決スヘシ

第二讀會ヲ開クヘカラスト決シタルトキハ其ノ議案ヲ廢棄シタルモノトス

第九十一條 第二讀會ハ第一讀會ヲ終リタル後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第一讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第九十二條 第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條朗讀シテ之ヲ議決スヘシ議長ハ便宜議案ノ朗讀ヲ省略セシムルコトヲ得

第九十三條 第二讀會ニ於テハ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得

議員ハ讀會ノ前豫メ修正案ヲ議長ニ提出スルコトヲ得

第九十四條 委員ノ報告ニ係ル修正ハ贊成ヲ待タスシテ議題ト爲スヘシ

第九十五條 議長ハ逐條審議ノ順序ヲ變更シ又ハ數條ヲ連ネ又ハ一條ヲ分割シテ討論ニ付スルコトヲ得但シ議員異議ヲ提出スル者アルトキハ其ノ贊成者アルヲ待チ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

第九十六條 第二讀會ノ終ニ於テ議院ハ便宜ニ依リ議案ヲ委員ニ付託シテ修正決議ノ條項及字句ヲ整理セシムルコトヲ得

第九十七條 第三讀會ハ第二讀會ノ後少クトモ二日ヲ隔テ之ヲ開クヘシ但シ議長ハ議院ニ諮ヒ時日ヲ短縮シ又ハ第二讀會ト同日ニ之ヲ開クコトヲ得

第九十八條 第三讀會ニ於テハ議案全體ノ可否ヲ議決スヘシ

第九十九條 第三讀會ニ於テハ文字ヲ更正スルノ外修正ノ動議ヲ爲スコトヲ得

トヲ得ス但シ議案中互ニ牴觸スル事項又ハ現行法律ト牴觸スル事項アルコトヲ發見シタルトキ必要ノ修正ヲ動議スルハ此ノ限ニ在ラス

第三節 討論

第一百條 議事日程ニ記載シタル議題ニ對シ發言セムト欲スル者ハ會議開始ノ前ニ豫メ其ノ氏名及反對又ハ贊成ノ旨ヲ記シテ書記官ニ通告スルコトヲ得

第一百一條 書記官ハ前條通告ノ順序ニ由リ之ヲ發言表ニ記入シ議長ニ報告スヘシ議長ハ討論ヲ始ムルニ當リ發言表ニ依リ反對者ヲシテ最初ニ發言セシメ次に贊成者及反對者ヲ可成交互ニ指名シテ發言セシムヘシ前項ノ指名ニ應セサル者ハ通告ノ効ヲ失フ

第一百二條 通告ヲ爲サル議員ハ通告ヲ爲シタル議員總テ發言ヲ終リタル後ニアラサレハ發言ヲ求ムルコトヲ得ス

通告ヲ爲シタル甲方ノ議員未タ發言ヲ終ラスト雖乙方ノ議員既ニ發言
ヲ終リタルトキハ通告ヲ爲サル乙方ノ議員發言ヲ求ムルコトヲ得

第三百三條 通告ヲ爲サスシテ發言セムト欲スル者ハ起立シテ議長ト呼ビ
及自己ノ氏名若クハ番號ヲ告ケ議長ノ許可ヲ待テ發言スヘシ (明治二十
三年十二月十九日改正)

第三百四條 二人以上起立シテ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ先起立者ト認ム
ル者ヲ指シテ發言セシメ同時ノ起立ナルトキハ議長ノ指定スル所ニ依
ル

第三百五條 延會又ハ議事中止ノトキ發言ヲ終ラサル議員ハ更ニ討論ヲ始
ムルトキニ於テ前ノ發言ヲ繼續スルコトヲ得

第三百六條 凡ヘテ發言ハ演壇ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ極メテ簡短ナル發
言及特ニ議長ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三百七條 議長ハ何時ニテモ議席ニ於テ發言スル議員ヲシテ演壇ニ登ラ
シムルコトヲ得

第三百八條 討論ハ議題外ニ涉ルコトヲ得ス

第三百九條 議員ハ同一ノ議題ニ付發言ニ回ニ及フコトヲ得ス但シ質疑應
答又ハ注意ノ喚起ハ此ノ限ニ在ラス

第三百十條 委員長又ハ報告者ハ其ノ報告ノ趣旨ヲ辯明スル爲ニ數回ノ發
言ヲ爲スコトヲ得

國務大臣政府委員發議者及動議者ハ議案又ハ發議動議ノ趣旨ヲ辯明ス
ル爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第三百十一條 資格ニ付キ異議ヲ申立ラレタル議員又ハ懲罰事犯アリト告
ケラレタル議員ハ辯明ノ爲ニ數回ノ發言ヲ爲スコトヲ得

第三百十二條 會議ニ於テ意見書又ハ理由書ヲ朗讀スルコトヲ得ス但シ引

證若ハ報告ノ爲ニ文書ヲ朗讀スルハ此ノ限ニ在ラス

第百十三條 議長自ラ討論ニ與カラムトスルトキハ豫メ之ヲ通告シ議席

ニ著キ副議長ヲシテ議長席ニ著カシムヘシ

第百十四條 議長討論ニ與カリタルトキハ其ノ問題ノ表決ニ至ルマテ議

長席ニ復スルコトヲ得ス

第百十五條 議長ハ討論ノ終局ヲ宣告ス

第百十六條 發言者未タ盡キスト雖議員討論終局ノ動議ヲ提出シ二十人

以上ノ賛成アルトキハ議長ハ議院ニ諮ヒ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘ

シ(明治二十四年十一月二十七日改正)

第百十七條 議院規則ノ疑義ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ

決スルコトヲ得

第四節 修正

第百十八條

議案ニ對スル修正ノ動議ハ其ノ案ヲ具ヘ議長ニ提出スヘシ

第百十九條

議員ノ提出シタル修正案ハ委員會ノ提出シタル修正案ニ先

チテ決ヲ取ルヘシ

第百二十條

同一ノ議題ニ付數個ノ修正案提出セラレタル場合ニ於テ議

長ハ表決ノ順序ヲ定ム其ノ順序ハ原案ニ最モ遠キモノヨリ先ニス若議

員ノ異議アルトキハ其ノ賛成者アルヲ待チ討論ヲ用キスシテ之ヲ決ス

ヘシ

第百二十一條

既ニ成立シタル修正ノ動議ハ議院ノ許可ヲ經ルニ非サレ

ハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

一議員ノ撤回シタル動議ハ他ノ議員定規ノ賛成者ト共ニ之ヲ繼續スル

コトヲ得

第百二十二條

修正案總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就テ決ヲ取ルヘ

シ
第二百二十三條 修正案原案共ニ過半數ノ賛成ヲ得サル場合ニ當リ議院ニ於テ廢棄スヘカラサルモノト議決スルトキハ特ニ委員ヲシテ其案ヲ起サシメ會議ニ付スルコトヲ得

第五節 表決

第二百二十四條 表決ノ際議場ニ現在セサル議員ハ表決ニ加ハルコトヲ得ス

第二百二十五條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ表決ニ付スヘキ問題ヲ議院ニ宣告スヘシ

議長表決ニ付スヘキ問題ヲ宣告シタル後ハ何人モ議題ニ付キ發言スルコトヲ得ス

第二百二十六條 議長表決ヲ取ラムトスルトキハ問題ヲ可トスル者ヲ起

セシメ起立者ノ多數ヲ認定シ可否ノ結果ヲ宣告スヘシ其ノ結果疑ハシト認ムルトキ又ハ議員議長ノ宣告ニ對シ異議ヲ申立二十人以上ノ賛成アルトキハ議長ハ書記官ニ命シ議員ノ氏名若クハ番號ヲ點呼セシメ議員ハ起立シテ可否ヲ表スヘシ(明治二十三年十二月十九日改正 同二十四年十一月二十七日)

點呼ノ結果ニ付キ仍議員ヨリ異議ヲ申立テ三十人以上ノ賛成アルトキハ議長ハ記名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ(明治二十三年十二月十九日同 二十四年十一月二十七日改正)

第二百二十七條 議長必要ト認ムルトキ又ハ議員二十人以上ノ要求アルトキハ起立ノ方法ヲ用キスシテ記名若クハ無名投票ヲ以テ表決ヲ爲サシムヘシ

第二百二十八條 記名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白色票ニ問題ヲ否トスル議員ハ青色票ニ各、其ノ氏名ヲ記シ投票函ニ投入スヘシ

第二百二十九條 無名投票ヲ行フ場合ニ於テハ問題ヲ可トスル議員ハ白球ヲ問題ヲ否トスル議員ハ黒球ヲ特ニ設ケタル函ニ投入シ同時ニ其ノ名刺ヲ名刺函ニ投入スヘシ若シ球數ト名刺ノ數ト同シカラサルトキハ再投票ヲ行フ

第二百三十條 點呼又ハ記名若ハ無名投票ヲ行フトキハ議場ノ入口ヲ閉鎖スヘシ(明治二十三年十二月十九日改正)

第二百三十一條 總テ投票ヲ終リタルトキハ議長ハ其ノ結果ヲ宣告スヘシ

第二百三十二條 議員ハ自己表決ノ更正ヲ求ムルコトヲ得ス

第六節 豫算會議
第二百三十三條 豫算委員豫算案ヲ數部ニ分割シタルトキハ每部ノ審査終ルニ從ヒ會議ヲ開クコトヲ得

豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付キ確定ノ議決ヲ爲スヘシ
豫算各部ノ議事ヲ終リタルトキハ總額ニ付キ確定ノ議決ヲ爲スヘシ
ヲ得

第七章 議事錄決議錄及速記錄(明治二十四年十二月五日改正)

第一節 議事錄

第三百三十五條 議事錄ハ左ノ事項ヲ記載ス

- 一 議院成立及開會閉會ニ關スル事項及年月日時
- 二 開議延會中止及散會ノ月日時
- 三 出席國務大臣及政府委員ノ氏名
- 四 勅語及勅旨
- 五 議長及委員長報告ノ件
- 六 會議ニ付シタル議案ノ題目

衆議院規則(豫算會議、議事錄決議錄及速記錄)

- 七 議題ト爲リタル動議及動議者ノ氏名
- 八 決議ノ事件
- 九 表決及可否ノ數ヲ計算シタルトキハ其ノ數
- 十 議院ニ於テ必要ト認メタル事項

第三百三十六條 決議録ハ議場ノ決議ヲ記載ス(明治二十四年十二月五日追加)

第三百三十七條 議員議事録決議録ニ記載シタル事實ニ對シテ異議アルト

キハ議長ハ書記官長ヲシテ答辯セシムハシ議員其ノ答辯ニ服セス又ハ

議長ノ處置ニ對シ不服ナルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ

取ルヘシ(明治二十四年十二月五日改正)

第三百三十八條 議事録決議録ハ議長又ハ當日ノ會議ヲ整理シタル副議長

若ハ假議長及書記官長又ハ其ノ代理タル書記官之ニ署名スヘシ

(明治二十四年十二月五日改正)

第二節 速記録

第三百三十九條 議事速記録ハ速記法ニ依リ議事ヲ記載ス

第四百十條 議院法第八十七條ニ依リ議長取消ヲ命シタル發言ハ速記

録ニ記載セス

第四百十一條 演說シタル議員ハ速記録配付ノ當日午後七時迄ニ訂正ヲ

求ムルコトヲ得但シ訂正ハ字句ニ止マリ演說ノ趣旨ヲ變更スルコトヲ

得ス

速記録ノ訂正ニ對シ異議ヲ申立ツル者アルトキハ議長ハ贊成者アルヲ

待チ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取ルヘシ

第八章 質問

第四百十二條 議員政府ニ對スル質問ニ付國務大臣ノ答辯其ノ要領ヲ得

サルトキハ議場ニ出席ヲ求メ更ニ精細ノ質問ヲ爲スコトヲ得

第四百十三條 質問ニ對スル答辯若ハ答辯ヲ爲サ、ル理由ニ付動議ヲ提

出スルモノアリ三十人以上ノ賛成アルトキハ之ヲ議題ト爲スコトヲ得

第九章 上奏建議及議案ノ奏上

第四百十四條 議院上奏シ又ハ勅諭ニ對シ奉答ノ敬禮ヲ表セムトスルト

キハ議長ハ宮内大臣ニ依リ謁見ヲ乞ヒ勅許ヲ經テ後參内スヘシ

第四百十五條 議院ノ建議書ハ議長ヨリ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第四百十六條 政府又ハ貴族院ヨリ提出シタル議案ヲ可決シタルトキハ

左ノ言辭ヲ用キ内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ

衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル某案ノ裁可ヲ奉請ス

第四百十七條 政府ヨリ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ左ノ言辭ヲ

用キ内閣總理大臣ヲ經由シテ奏上スヘシ

衆議院ハ某案ニ付テ更ニ廟議ヲ盡サレムコトヲ奉請ス

第十章 請願

第四百十八條 議院ハ請願者ノ住所身分職業年齢ヲ記シ各自署名捺印シ

タル請願書ニ非サレハ受理セス請願者自ラ署名スルコト能ハス他人ヲ

シテ代署セシムルトキハ代署シタル人其ノ由ヲ付記シ之ニ署名捺印ス

ヘシ

第四百十九條 法人ノ請願書ハ代表者之ニ署名シ法人ノ印章ヲ捺スヘシ

第四百五十條 請願書ハ普通ノ邦文ヲ用フヘシ若シ外國語ヲ用キサルヲ

得サルトキハ之ニ註解ヲ附スヘシ

第四百五十一條 請願ヲ紹介スル議員ハ請願書ノ表紙ニ紹介議員某ト書ス

ヘシ

第四百五十二條 請願委員ハ請願提出ノ順序ニ依リ之ヲ審査スヘシ

第四百五十三條 議員簡短ナル説明書ヲ以テ一ノ請願ニ對シ至急ノ審査ヲ

議院ニ請求スルトキハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取り時日ヲ

衆議院規則(請願上奏建議及議案ノ奏上)

限リ請願委員ニ付託スヘシ

第五十四條 請願文書表ニハ請願ノ趣旨提出ノ年月日請願者ノ住所身分職業氏名紹介議員ノ氏名ヲ記スヘシ

請願者數名アルトキハ請願者某及外幾名ト記スヘシ

第五十五條 請願文書表ハ議長之ヲ印刷セシメテ毎週一回議員ニ配付スヘシ

請願書ハ議院ノ決議ニ依ルニアラサレハ印刷配付セス

第五十六條 請願委員ハ審査ノ結果ニ從ヒ左ノ區別ヲ爲シ其ノ大要ヲ

記シ議院ニ報告スヘシ

一 議院ノ會議ニ付スヘシトスルモノ

二 議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルモノ

第五十七條 請願委員ハ議院ノ會議ニ付スヘシトスルノ請願ニ付テハ

特別ノ報告ヲ爲スヘシ

第五十八條 請願委員ニ於テ議院ノ會議ニ付スルヲ要セストスルノ報

告ニ對シ一週間内ニ議員ヨリ會議ニ付スルノ要求ヲ爲ス者ナキトキハ

委員ノ決議ヲ以テ確定トス

第五十九條 請願書ハ會議ニ付スルモノ之ヲ朗讀セス但シ議員朗讀ヲ要

求スル者アルトキハ議院ハ討論ヲ用キスシテ之ヲ決スヘシ

第十一章 請暇及辭職

第一節 請暇

第六十條 議員事故ノ爲ニ數日間議院ニ出席スルコト能ハサルトキ

ハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ豫メ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ公

務又ハ疾病若ハ一時已ムヲ得サル事故アリテ議院ニ出席スルコトヲ得

サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ闕席届書ヲ差出スヘシ

第六十一條 請暇ノ許可ヲ得議院所在ノ地ヲ離ル、者ハ其ノ出發及歸著ノ時ニ於テ議長ニ届出ヘシ

第六十二條 議員請暇ノ許可ヲ得タル日限ニ至リ事故ニ由リ仍議院ニ出席スルコトヲ得サルトキハ其ノ理由ヲ具ヘ日數ヲ定メテ更ニ請暇書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ但シ臨時事變ノ爲ニ此ノ手續ヲ爲ス能ハサルトキハ後日其ノ理由ヲ申告シ承認ヲ受クヘシ

第六十三條 請暇ノ許可ヲ得タル議員其ノ請暇ノ期限内ニ議院ニ出席スルトキハ請暇許可ノ効ヲ失フ

第二節 辭職

第六十四條 議員辭職セムトスルトキハ辭表ヲ議長ニ差出スヘシ

第六十五條 議長ハ辭表ヲ朗讀セシメ討論ヲ用キシテ其ノ許否ヲ議決セシムヘシ其ノ閉會中ニ於テハ議長之ヲ處分シ次會期ノ始ニ於テ議

院ニ報告スルコトヲ得

第六十六條 辭表中不敬又ハ無禮ノ文辭アリト認ムルトキハ議長ハ朗讀ヲ禁止シテ其ノ要領ヲ議院ニ報告スルコトヲ得

第六十七條 前條ノ場合ニ於テハ議長ハ其ノ辭表ヲ懲罰委員ニ付シテ審査セシムルコトヲ得

第十二章 警察及秩序

第一節 警察

第六十八條 議長ハ守衛及警察官吏ヲ指揮シテ議院内部ノ警察權ヲ施行ス

第六十九條 守衛ハ議事堂内警察官吏ハ議事堂外ノ警察ヲ爲ス但シ議長ノ特ニ命シタル場合ニ於テハ警察官吏議事堂内ノ警察ヲ行フコトアルヘシ

第七十條 院内ノ防火點燈導水煖爐及室内掃除ノ事ハ守衛之ヲ監督ス

第七十一條 議院内部ニ於テ重罪輕罪ノ現行犯人アルトキハ守衛又ハ警察官吏ハ之ヲ逮捕シテ議長ノ命令ヲ請フヘシ但シ議場ニ於テハ議長ノ命令ヲ待タスシテ逮捕スルコトヲ得ス

第二節 議場内ノ秩序

七十二條 議場ニ入ルモノハ羽織袴「フロツクコート」又ハ「モーニングコート」ノ外總テ略服ヲ著シ又ハ異様ノ服装ヲ爲スヘカラス但シ無地又ハ之ハ準スヘキ折襟背廣服ノ著用ヲ妨ケス(大正九年七月廿八日改正)

七十三條 議場ニ入ルモノハ外套傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス帽子ヲ著スヘカラス

七十四條 議場内ニ於テ吸烟スヘカラス

七十五條 議事中ハ參考ノ爲ニスルモノヲ除ク外新聞紙及書籍ヲ閱讀スルコトヲ得ス

七十六條 何人モ議事中贊聲否聲ヲ發シ又ハ喧噪シテ他人ノ演說及朗讀ヲ妨クルコトヲ得ス

七十七條 散會ニ際シ議員ハ議長退席ノ後ニ非サレハ退席スルコトヲ得ス

第十三章 傍聽

七十八條 議長號鈴ヲ鳴ラストキハ何人モ總テ沈黙スヘシ

七十九條 凡ソ秩序ノ問題ハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ議院ニ諮ヒ之ヲ決スルコトヲ得

第八十一條 外國交際官ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ外務省ノ照會ニ依リ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ承ケ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ該省ニ送付スヘシ

第八十二條 官吏ノ傍聽ヲ求ムル者アルトキハ所屬官廳ノ照會ニ依リ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ其ノ員數ヲ限リ傍聽券ヲ其ノ官廳ニ送付スヘシ

第八十三條 公衆ノ傍聽ヲ求ムル者ハ議員ノ紹介ニ依ルヘシ 書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ豫メ公衆傍聽券ノ員數ヲ定メ之ヲ部長ニ送付シ部長ハ之ヲ部員ニ配付ス

第八十四條 在東京日刊新聞社ニハ一會期ニ通スル傍聽券二十五枚在 地方日刊新聞社ニハ十枚ヲ交付シ各社ノ協議ヲ以テ之ヲ分配セシムヘシ

第八十五條 議事開始ノ後一時間ヲ經過シ仍傍聽席空位アリテ議員ノ紹介アルトキハ書記官長ハ議長ノ指揮ヲ受ケ傍聽券ヲ交付スルコトヲ得

第八十六條 議員傍聽人ヲ紹介スルトキハ傍聽人紹介人トモ其ノ氏名ヲ傍聽券ニ記入スヘシ

第八十七條 傍聽人ハ傍聽券ヲ守衛ニ示シ其ノ指示スル所ノ席ニ著クヘシ

第八十八條 凡ノ傍聽席ニ在ル者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

- 一 羽織若ハ袴又ハ洋服ヲ著スヘシ
- 二 帽子又ハ外套ヲ著スヘカラス
- 三 傘杖ノ類ヲ携帯スヘカラス
- 四 飲食又ハ吸烟スヘカラス

五 議員ノ言論ニ對シ可否ヲ表スヘカラス

六 喧擾ニ涉リ議事ヲ妨害スヘカラス

第百八十九條 戎器兇器ヲ携持シタル者及酩酊シタル者ハ傍聽席ニ入ルコトヲ許サス

第百九十條 何等ノ事由アルモ傍聽人ハ議場ニ入ルコトヲ得ス

第百九十一條 祕密會議ヲ開クノ決議アリタルトキ又ハ傍聽席騷擾ナルニ由リ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルトキハ議長ハ守衛ヲシテ其ノ命令ヲ執行セシムヘシ

第十四章 懲罰

第百九十二條 會議ニ於テ懲罰事犯アルトキハ議長ハ會議ヲ中止シ又ハ犯人ヲ退場セシムルコトヲ得

第百九十三條 委員會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長ハ委員會ヲ中止

スルコトヲ得

第百九十四條 部ニ於テ懲罰事犯アルトキ部長ノ處分ハ委員長ノ例ニ同シ

第百九十五條 委員長又ハ部長ニ於テ懲罰事犯ト認メサル事件ニ付テモ委員又ハ部員ハ議院法第九十八條ニ依リ懲罰ノ動議ヲ議院ニ提出スルノ權ヲ失ハス

第百九十六條 議院法第九十八條第一項ノ場合ニ於テハ議長ハ討論ヲ用キスシテ議院ノ決ヲ取リ之ヲ懲罰委員ニ付スヘシ

第百九十七條 懲罰事犯ノ議事ハ祕密會議ヲ以テス

第百九十八條 議員ハ自己ノ懲罰事犯ノ會議ニ列席スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可ヲ經テ自ラ辯明シ又ハ他ノ議員ヲシテ代リテ辯明セシムルコトヲ得

第九十九條 懲罰委員ハ議長ヲ經由シテ本人及關係議員ヲ召喚訊問スルコトヲ得

第二百條 議長ノ制止又ハ取消ノ命ニ從ハサル者ハ議長議院法第八十七條ニ依リ之ヲ處スルノ外仍懲罰事犯トシテ懲罰委員ニ付スルコトヲ得

第二百一條 公開議場ニ於テ謝辭ヲ表セシメトスルトキハ懲罰委員ハ謝辭ノ要領ヲ起草シ其ノ報告ト共ニ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第二百二條 議院ノ命令ニ抵抗シ又ハ議長ヲ侮辱シタル者及同會期中譴責セラル、コト三回ニ至リ更ニ譴責ニ當ルヘキ事犯アル者ハ出席ヲ停止スルコトヲ得

第二百三條 出席停止ハ二週間ヲ超ユルコトヲ得ス

第二百四條 出席ヲ停止セラレタル者委員ナルトキハ其ノ任ハ解ケタル

モノトス

第二百五條 出席ヲ停止セラレタル者其ノ停止期限内ニ議場ニ入ルトキハ議長ハ直ニ退去ヲ命シ其ノ命ニ從ハサルトキハ必要ノ處分ヲ爲シ更ニ懲罰委員ニ付スヘシ

第二百六條 凡ソ議院ノ騷擾ヲ醸シ又ハ議院ノ體面ヲ汚スヘキ所行ニシテ其ノ情重キ者ハ出席ヲ停止シ又ハ除名スルコトヲ得

第二百七條 議院懲罰ヲ議決シタルトキハ議長ハ公開議場ニ於テ之ヲ宣告ス

第二百八條 議長ハ懲罰事犯ト認ムル所ノ言論ノ一部又ハ全部ヲ公布スルコトヲ禁スルコトヲ得

議院ニ於テ懲罰事犯ナシト議決シタルトキハ議長ノ命令ハ自ラ消滅ス
第十五章 貴族院ニ對スル關係

衆議院規則(貴族院ニ對スル關係)

第二百九條 議案ヲ貴族院ニ移ストキハ議長ハ書記官長ヲシテ之ヲ貴族院議長ニ傳達セシム

第二百十條 貴族院ヨリ議案ヲ受取リタルトキハ議長ハ之ヲ議院ニ報告スヘシ

第二百十一條 協議委員ノ選舉ハ第六十三條ノ例ニ依ル

第二百十二條 議院法第五十五條ニ依リ貴族院ヨリ廻付シタル修正案ヲ議シ及協議會ノ報告ヲ議スルニハ三讀會ヲ經ルヲ要セス

第二百十三條 協議會ニ於ケル衆議院ノ委員ハ其ノ報告委員ヲ互選スルコトヲ得

第二百十四條 協議委員ノ數協議會ノ定數及決議ノ方法並協議會議長ノ權限ハ議院法第六十一條ニ依リ委員ヲ派シ兩院協議シテ之ヲ定ムヘシ

○法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則(明治三十九年三月二十一日衆議院議決)

第一條 請願委員會ニ於テ法律ノ制定ニ關スル請願ニシテ採擇スヘキモノト決シタルトキハ法律案ヲ具シテ報告スルコトヲ得

第二條 前條ノ法律案ハ請願委員長ヲ以テ提出者トス

○投票ニ關スル規則(明治四十二年十二月二十五日衆議院議決)

選舉又ハ表決ノ爲投票ヲ行フ場合ニハ議長ハ便宜議員ヲシテ各議席ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ議長ハ書記官ヲ議席ニ派遣シ其ノ投票ヲ受領セシム

○兩院協議會規程(明治二十四年三月二日議決)

法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則、投票ニ關スル規則、兩院協議會規程

第一條 甲議院ニ於テ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ其件名及理由ヲ記シ文書ヲ以テ之ヲ乙議院ニ通知スヘシ

第二條 協議委員ノ數ハ協議會ヲ求ムル議院之ヲ定ム

第三條 協議會初會ノ日時ハ兩院議長ノ協議ニ依テ之ヲ定メ爾後會議ノ日時ハ協議會之ヲ定ム

第四條 協議會ハ協議室ニ於テ之ヲ開ク

第五條 協議會ハ兩院ノ委員各三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス

第六條 甲議院ノ出席委員乙議院ノ出席委員ヨリ多キトキハ表決ノ際抽籤ヲ以テ其超過シタル數ノ委員ヲ減除ス但議長ハ其數ニ算入セス

第七條 協議會ノ議長ハ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス

第八條 協議會ノ議長自ラ討議ニ與ラントスルトキハ其院ノ副議長ヲシ

テ代テ議長席ニ著カシムヘシ

第九條 協議委員ハ協議會ニ於テ同一ノ事件ニ付幾回タリトモ發言スルコトヲ得

第十條 協議會ニ於ケル動議ハ一名以上ノ贊成ニ依リ議題トナスヘシ

第十一條 協議會ノ議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ決ス

第十二條 兩院ノ協議委員ハ各副議長一名ヲ選ヒ議長故障アルトキハ之ヲ代理セシム

議長副議長共ニ故障アルトキハ其院ノ委員中ヨリ假議長ヲ選定シ議長ノ職務ヲ行ハシム

第十三條 協議會ノ議事録及議事速記録ハ各二部ヲ作り協議會ノ議長之ニ檢印スヘシ

第十四條 協議會ノ議事録及其他ノ文書ハ各院ノ書記官ヲシテ之ヲ掌ラ

シム

第十五條 協議會ノ議事録又ハ議事速記録ノ記事ニ對シ異議アルトキハ協議會之ヲ決ス

第十六條 協議會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ協議會ノ議長ハ之ヲ其委員所屬議院ノ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

○衆議院議員選舉法

明治三十三年法律第七十三號 改正三五年第三八號、第三九號、四一年第五八號、四三年第六五號、大正八年第六〇號

第一章 選舉ニ關スル區域

第一條 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 投票區ハ市町村ノ區域ニ依ル

特別ノ事情アル市町村ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ投票ニ關シ本法ノ規定ヲ適用シ難キトキハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

第四條 市町村長ハ投票管理者トナリ投票ニ關スル事務ヲ擔任ス

第五條 削除

第六條 郡市長ハ選舉長トナリ選舉會ニ關スル事務ヲ擔任ス

一選舉區數郡市ニ涉ルトキハ地方長官ハ關係郡市長ノ一人ヲシテ選舉長タラシムヘシ

衆議院議員選舉法(選舉ニ關スル區域)

第七條 行政區畫ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章 選舉權及被選舉權

第八條 左ノ要件ヲ具備スル者ハ選舉權ヲ有ス

- 一 帝國臣民タル男子ニシテ年齡二十五年以上ノ者
- 二 選舉人名簿調製ノ期日迄引續キ滿六箇月以上同一選舉區内ニ住所ヲ有スル者
- 三 選舉人名簿調製ノ期日迄引續キ滿一年以上直接國稅三圓以上ヲ納ムル者

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ニ付テハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ爲シタル納稅ト看做ス

第九條 前條ノ要件中其ノ期間ニ關スルモノハ行政區畫變更ノ爲中斷セ

ラルルコトナシ

第十條 帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

第十一條 左ニ掲クル者ハ選舉權被選舉權ヲ有セス

- 一 禁治產者及準禁治產者
- 二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
- 三 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
- 四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第十二條 華族ノ戶主ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者又ハ官立公立私立學校ノ學生、生徒亦前項ニ同シ

第十三條 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師、小學校教員ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

政府ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員及支配人ハ被選舉權ヲ有セス

前項ノ役員トハ取締役、監查役及之ニ準スヘキ者並清算人ヲ謂フ

第十四條 選舉事務ニ關係アル官吏、吏員ハ其ノ關係郡市内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後三箇月ヲ經過セサル者亦同シ

第十五條 宮内官、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計検査官、收稅官吏及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セス

第十六條 前條ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ナキ限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

ヲ得

第十七條 府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章 選舉人名簿

第十八條 町村長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ選舉人名簿正副二本ヲ調製シ十月十五日迄ニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ副本ハ十月三十一日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

市長ハ毎年十月一日ノ現在ニ依リ其ノ市内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調査シ十月三十一日迄ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月日、納稅額及納稅地等ヲ記載スヘシ

第十九條 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルト
キハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ證明ヲ得テ十月五日迄ニ其ノ住所地ノ
市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期日迄ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ
選舉人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第二十條 郡長、市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間其ノ廳又ハ地方長
官ノ許可ヲ得タル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ縦覽ニ供スヘシ

第二十一條 選舉人選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルト
キハ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ之ヲ郡市長ニ申立ツルコトヲ得

第二十二條 選舉人正當ノ事故ニ因リ第十九條ノ手續ヲ爲スコト能ハス
シテ選舉人名簿ニ登錄セラレサルトキ亦前條ノ例ニ依ル

第二十三條 縦覽期限ヲ經過シタルトキハ前二條ノ申立ヲ爲スコトヲ得
ス

第二十四條 郡市長ニ於テ第二十一條第二十二條ノ申立ヲ受ケタルトキ
ハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決
定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ修
正シ其ノ由ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セテ其ノ要領ヲ告示スヘシ其
ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ之ヲ申立人ニ通知スヘシ
前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ其ノ由ヲ本人住所地ノ町村
長ニ通知スヘシ

第二十五條 前條郡市長ノ決定ニ不服アル申立人及關係人ハ郡市長ヲ被
告トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スル
コトヲ得

前項地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ
上告スルコトヲ得

第二十六條 町村長ハ十一月二十日ヨリ十二月十日迄ノ間ニ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿ヲ郡長ニ送付スヘシ

前項名簿ノ送付ヲ受ケタル郡長ハ之ヲ調査シ其ノ修正スヘキモノハ修正ヲ加ヘ十二月二十日迄ニ之ヲ町村長ニ返付スヘシ

第二十七條 選舉人名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決ニ依リ修正スヘキモノハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

前項ニ依リ名簿ヲ修正シタルトキハ郡長ハ其ノ由ヲ本人住所地ノ町村長ニ通知シ副本ヲ修正セシムヘシ

天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ必要アルトキハ更ニ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

前項選舉人名簿ノ調製及其ノ期日、縦覽確定ニ關スル期日、期間等ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四章 選舉、投票及投票所

第二十八條 總選舉ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ三十日前ニ之ヲ公布ス

第二十九條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
投票ハ一人一票ニ限ル

第三十條 投票所ハ市役所、町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第三十一條 投票管理者ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ投票所ヲ其ノ投票区内ニ告示スヘシ

第三十二條 郡市長ハ各投票区内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上五名以

下ノ投票立會人ヲ選任シ選舉ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十三條 投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第三十四條 選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

投票管理者ハ投票ヲ爲サムトスル選舉人ノ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハサルトキハ其ノ本人ナル旨ヲ宣言セシムヘシ其ノ宣言ヲ爲ササル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

第三十五條 投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ

第三十六條 選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名

ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

第三十七條 選舉人名簿ニ登録セラレサル者ハ投票スルコトヲ得ス但シ

選舉人名簿ニ登録セラルヘキ確定判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ

到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシムヘシ

第三十八條 選舉人名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ投

票ヲ爲スコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者亦前項ニ同シ

第三十九條 投票ノ拒否ハ投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定

スヘシ

前項ノ決定ヲ受ケタル町村ノ選舉人不服アルトキハ投票管理者ハ假ニ投票ヲ爲サシムヘシ

前項ノ投票ハ選舉人ヲシテ之ヲ封筒ニ入レ封緘シ表面ニ自ラ其ノ氏名ヲ記載シ投函セシムヘシ

第一項ニ掲クル者ニ於テ異議アル町村ノ選舉人ニ對シテモ亦前二項ニ同シ

第四十條 投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者ハ其ノ由ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル選舉人ノ投票結了スルヲ待テ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票スルコトヲ得ス

第四十一條 投票管理者ハ投票録ヲ作り投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第四十二條 投票管理者ハ一名又ハ數名ノ投票立會人ト共ニ町村ノ投票區又ハ郡ト合セテ選舉區ヲ爲ス市ノ投票區ニ於テハ投票ノ翌日迄ニ、

其ノ他ノ投票區ニ於テハ投票ノ當日投票函、投票録及選舉人名簿ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第四十三條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ地方長官ハ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ選舉會ノ期日迄ニ其ノ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十四條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選舉長ヲ經テ地方長官ニ其ノ由ヲ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ更ニ期日ヲ定メ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ投票區内ニ告示セシムヘシ

第四十五條 同一選舉區ニ於テ同時ニ二人以上ノ議員ヲ選舉スルトキハ

選舉ノ種類如何ニ拘ラス第二十九條及第三十六條ノ例ニ依ル

第四十六條 何人ト雖選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ陳述スルノ義務ナシ

第五章 投票所取締

第四十七條 投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條 選舉人、投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス

第四十九條 投票所ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

第五十條 前條ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ

投票ヲ爲スコトヲ得但シ投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルヲ妨ケス

第六章 選舉會

第五十一條 選舉會ハ選舉長ノ屬スル郡市役所又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ選舉長ノ指定シタル場所ニ之ヲ開ク

第五十二條 選舉長ハ豫メ選舉會ノ場所及日時ヲ告示スヘシ

第五十三條 地方長官ハ各選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ三名以上七名以下ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉會ノ期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉會ニ參會セシムヘシ

選舉立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十四條 選舉長ハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル日ノ翌日選舉會ヲ開キ選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ

計算スヘシ

第五十五條 前條ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ先ツ第三十九條第二項及第四項ノ投票ヲ調査シ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ其ノ受理如何ヲ決定スヘシ

選舉長ハ各投票所ノ投票ヲ混同シ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ
一 選舉區數郡市ニ涉ルトキハ各郡市別ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十六條 選舉人ハ其ノ選舉會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 投票ノ效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長之ヲ決定スヘシ

第五十八條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 二 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

七 衆議院議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

前項第七號ノ規定ハ第七十四條又ハ第七十八條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第五十九條 投票ハ有效無効ヲ區別シ議員ノ任期間選舉長ニ於テ之ヲ保存スヘシ

一 選舉區數郡市ニ涉ルトキハ各郡市別ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十條 選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉會ニ關スル顛末ヲ記載シ選舉立

會人ト共ニ署名シ投票録ト併セテ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十一條 選舉ノ一部無効トナリ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於ケル選舉會ニ於テハ其ノ投票ノ效力ヲ決定スヘシ

第六十二條 第四十四條ノ規定ハ但書ヲ除キ選舉會ニ之ヲ準用ス

第六十三條 選舉會場ノ取締ニ付テハ第五章ノ規定ヲ準用ス

第七章 削除

第六十四條 削除

第六十五條 削除

第六十六條 削除

第六十七條 削除

第六十八條 削除

第六十九條 削除

第八章 當選人

第七十條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選舉區内ノ議員定數ヲ以テ選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シ

テ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢モ亦

同シキトキハ選舉會ニ於テ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定

ムヘキ場合ニ於テハ選舉會ヲ開キ之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ、死亡者ナルトキ又ハ選舉ニ關スル犯罪ニ

依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効トナリタルトキ其ノ當選人第二項ノ規

定ニ依リ當選人トナリタル者ナル場合ニ於テハ選舉會ヲ開キ其ノ規定

ノ適用ヲ受ケタル他ノ得票者ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ第五十四條第五十五條第五十七條乃至第五十九條第六十一條ノ規定ヲ適用セス

第七十一條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ當選人ノ氏名、得票數及選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ總數其ノ他選舉ノ顛末ヲ地方長官ニ報告スヘシ
當選人ナキトキ又ハ當選人議員ノ定數ニ達セサルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十二條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ選舉長ニ届出ツヘシ
一人ニシテ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス
選舉長第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第七十三條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第七十四條 左ニ掲クル事由ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ルトキ又ハ左ニ掲クル其ノ他ノ事由ニ依リ若ハ第七十八條第四項ノ規定ニ依リ選舉ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外地方長官ハ選舉ノ期日ヲ定メ豫メ之ヲ告示シ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

- 一 當選人ナキトキ又ハ當選人議員ノ定數ニ達セサルトキ
- 二 當選人當選ヲ辭シタルトキ又ハ死亡者ナルトキ
- 三 選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ當選人ナキニ至リ又ハ當選人議員ノ定數ニ達セサルニ至リタルトキ
- 四 當選人選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ其ノ當選無効トナリ

タルトキ

選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ出訴期間ハ前項ノ規定ニ依ル選舉ヲ行フコトヲ得ス其ノ出訴アリタル場合ニ於テ訴訟繫屬中亦同シ

第七十五條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ地方長官ハ直ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ管内ニ告示シ且之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第七十六條 選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ判決ニ依リ選舉若ハ當選無効トナリタルトキ又ハ當選證書ヲ付與シタル後選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキハ地方長官ハ其ノ當選證書ヲ取消シ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第九章 議員ノ任期及補闕選舉

第七十七條 議員ノ任期ハ總選舉ノ期日ヨリ四箇年トス但シ議會開會中ニ任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任ス

第七十八條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ内務大臣ハ地方長官ニ其ノ補闕ノ手續ヲ爲スヘキ旨ヲ命スヘシ

地方長官ハ第七十四條ノ規定ニ依リ選舉ノ期日ヲ告示シタルトキヲ除クノ外前項ノ規定ニ依ル命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ補闕選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第七十條第二項ノ規定ニ依リ當選人トナリタル議員闕員トナリタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ選舉長ニ通知スヘシ
選舉長ハ前項但書ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ第七十條第四項及第五項ノ規定ヲ準用シ當選人ヲ定ムヘシ
補闕選舉ノ期日ハ地方長官豫メ之ヲ告示スヘシ

第七十四條第二項ノ規定ハ補闕選舉ニ之ヲ準用ス

第七十九條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十章 選舉訴訟及當選訴訟

衆議院議員選舉法(議員ノ任期及補闕選舉)

第八十條 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十一條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ當選ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アル場合ニ限り裁判所ハ其ノ選舉ノ全部若ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ

當選訴訟ニ於テモ其ノ選舉前項ノ場合ニ該當スルトキハ裁判所ハ其ノ全部若ハ一部ノ無効ヲ判決スヘシ

第八十二條 當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ第七十五條ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但シ第七十條第一項但書ニ定メタル得票ニ達シタリトノ理由ニ由リ出訴スル場合ニ於テハ選舉長ヲ被告トシ第七十四條ノ告示

ノ日ヨリ三十日以内ニ出訴スヘシ

前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

當選訴訟ノ裁判確定前當選人死亡シタルトキハ檢事ヲ被告トス

第八十三條 裁判所ハ選舉訴訟若ハ當選訴訟ヲ裁判スルニ當リ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムヘシ

第八十四條 選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ出訴アリタルトキハ裁判所ハ其ノ

旨ヲ内務大臣ニ通知スヘシ訴訟ノ繫屬セサルニ至リタルトキ亦同シ

裁判所ニ於テ選舉訴訟若ハ當選訴訟ヲ判決シタルトキハ其ノ判決書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若シ帝國議會開會中ナルトキハ併セテ之ヲ衆議院議長ニ送付スヘシ

第八十五條 原告人ハ訴狀ヲ提出スルト同時ニ保證金トシテ三百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ公債證書ヲ供託スヘシ

原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴ス

第十一章 罰則

第八十六條 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登録セラレタル者又ハ第三十四條第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ宣言ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ

二百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品、手形其ノ他ノ財産上ノ利益又ハ公私ノ職務ノ供與若ハ其ノ供與ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ供與ノ申込ヲ爲シタルトキ
- 二 議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ

酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス 饗應接待若ハ其ノ

饗應接待ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ饗應接待ノ申込ヲ爲シタルトキ

三 議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人ニ對シ投票所ニ往復スル爲ノ船車馬ノ類ノ供給旅費休泊料ノ類ノ代辦若ハ其ノ供給代辦ノ約束ヲ爲シ又ハ其ノ供給代辦ノ申込ヲ爲シタルトキ

四 議員候補者カ投票ヲ得ル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ選舉人若ハ選舉運動者又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ

五 議員候補者若ハ選舉運動者カ投票ヲ爲サシメサル目的ヲ以テ又ハ選舉運動者カ議員候補者ノ爲ニ投票ヲ爲サシムル目的ヲ以テ第一號乃至第三號ノ供與饗應接待供給代辦若ハ其ノ約束ヲ爲シ又ハ第

- 六 一號乃至第三號ノ申込若ハ前號ノ誘導ヲ爲シタルトキ
議員候補者又ハ選舉運動者カ議員候補者ヲシテ議員候補者タルコトヲ止メシメ又ハ選舉運動者ヲシテ選舉運動ヲ止メシムル目的ヲ以テ其ノ者ニ對シ第一號ノ供與其ノ供與ノ約束若ハ其ノ供與ノ申込ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ者若ハ其ノ者ニ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
- 七 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト議員候補者タルコトヲ止メタルコト選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ議員候補者又ハ選舉運動者カ選舉人、議員候補者又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ノ供與若ハ第二號ノ饗應接待、其ノ供與若ハ饗應接待ノ約束又ハ其ノ供與若ハ饗應接待ノ

- 八 申込ヲ爲シタルトキ
第一號乃至第三號前三號ノ供與饗應接待供給代辦ヲ受ケ若ハ要求シ又ハ第一號乃至第三號前三號ノ申込ヲ承諾シ若ハ第四號乃至第六號ノ誘導ニ應シタルトキ
- 九 第一號乃至前號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ前項ノ場合ニ於テ收受シタル利益ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス
- 第八十八條 選舉ニ關シ左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 一 選舉人、議員候補者又ハ選舉運動者ニ對シ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ
 - 二 選舉人、議員候補者若ハ選舉運動者ノ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐偽ノ

方法ヲ以テ投票若ハ選舉運動ヲ妨ケ、爲サシメ若ハ止メシメタルトキ

三、舉選人、議員候補者若ハ選舉運動者又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シテ選舉人、議員候補者又ハ選舉運動者ヲ威逼シタルトキ

第八十九條 選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人及監視者選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ表示シタル事實虛偽ナルトキ亦同シ
選舉ニ關シ官吏又ハ吏員故意ニ其ノ職務ノ執行ヲ怠リ又ハ職權ヲ濫用シテ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキハ二年以下ノ禁錮ニ處ス
官吏又ハ吏員選舉人ニ對シ其ノ投票セムトシ又ハ投票シタル被選舉人

ノ氏名ノ表示ヲ強要シタルトキハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票所又ハ選舉會場ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

法令ノ規定ニ依ラスシテ投票函ヲ開キ又ハ投票函中ノ投票ヲ取出シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十一條 投票管理者、選舉長、立會人若ハ選舉監視者ニ暴行若ハ脅迫ヲ加ヘ又ハ選舉會場若ハ投票所ヲ騷擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取シタル者ハ四年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十二條 多衆聚合シテ第八十八條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ一年以上七年以下ノ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八十八條第一號又ハ前條ノ罪ヲ犯ス爲多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍解散セサルトキハ首魁ハ二年以下ノ禁錮ニ處シ其ノ他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九十三條 選舉ニ關シ銃砲、槍戟、刀劍、竹槍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ領置スルコトヲ得

第九十四條 前條記載ノ物件ヲ携帶シテ選舉會場若ハ投票所ニ入りタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十五條 選舉ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ヲ以テ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、篝火、松明ノ類ヲ用キ若ハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受タルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス第八十七條第八十八條第九十條乃至前條ノ罪ヲ犯サシムル目的ヲ以テ人ヲ煽動シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス但シ新聞紙、雜誌ニ在リテハ仍其ノ編輯人及實際編輯ヲ擔當シタル者ヲ罰ス

第九十七條 當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス新聞紙雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

第九十八條 選舉人ニ非サル者投票ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐僞ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者又ハ投票ヲ僞造シ若ハ其ノ數ヲ増減シタル者ハ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ缺クトキ

ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百條 第九十三條及第九十四條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

第一百一條 當選人其ノ選舉ニ關シ本章ニ掲クル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第一百二條 本章ニ掲クル罪ヲ犯シタル者ニシテ罰金ノ刑ニ處セラレタルモノニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後五年間、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ在リテハ其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ終ル迄又ハ刑ノ時効ニ因ル場合ヲ除クノ外刑ノ執行ノ免除ヲ受クル迄ノ間及其ノ後五年間選舉權及被選舉權ヲ有セス禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノニ付其ノ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ間亦同シ

前項ノ規定ハ第十一條第三號ノ規定ニ該當スル者ニハ之ヲ適用セス

第一百三條 本法ニ依リ處罰スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ時効ニ罹ル

第十二章 補則

第一百四條 選舉ニ關スル費用ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百五條 選舉ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第一百六條 郡長ヲ置カサル地ニ於テハ本法中郡ニ關スル規定ハ島司北海道廳支廳長其ノ他郡長ニ準スヘキ者ノ管轄區域ニ、郡長ニ關スル規定ハ島司北海道廳支廳長其ノ他郡役所ニ準スヘキ者ニ、郡役所ニ關スル規定ハ島廳北海道廳支廳其ノ他郡役所ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス
市制第六條ノ市又ハ沖繩縣若ハ北海道ノ區ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキ者ニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第一百七條 立會ハ指定ノ時刻ニ至リ參會セサルトキ又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ投票管理者、選舉長ハ臨時ニ選舉人ノ中ヨリ立會人ヲ選任スヘシ

第一百八條 選舉人名簿ニ關スル訴訟、選舉訴訟及當選訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除クノ外總テ民事訴訟ノ例ニ依ル

第一百九條 本法ニ於ケル直接國稅ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百十條 北海道及沖繩縣ニ於テ本法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三章 補則

第百十一條 本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

第百十二條 明治十三年第三十六號布告刑法第二編第四章第九節ハ衆議院議員ノ選舉ニ關シテハ之ヲ適用セス

第百十三條 本法ハ東京府小笠原島竝北海道廳根室支廳管内占守郡、新知郡、得撫郡及色丹郡ニハ當分ノ内之ヲ施行セス

別表

選舉區

議員數

第一區 麴町區 一人

東京府

第二區 麻布區 一人

第三區 赤坂區 一人

第四區 芝區 一人

第五區 京橋區 一人

第六區 日本橋區 一人

第七區 深川區 一人

第八區 淺草區 二人

第九區 神田區 三人

第十區 下谷區 一人

第十一區 本郷區 一人

第十二區 小石川區 一人

第十三區 牛込區 一人

第十四區 八王子市 一人

第十五區 豐多摩郡 三人

第十六區 荏原郡 一人

第十七區 伊豆七島 二人

第十八區 北豐島郡 一人

第十九區 南足立郡 一人

第二十區 南葛飾郡 一人

第二十一區 南多摩郡 二人

第二十二區 西多摩郡 二人

第二十三區 北多摩郡 二人

京都府 第一區 上京區 二人

第二區 下京區 二人

衆議院議員選舉法 別表(東京、京都)

第三區
 愛宕郡 葛野郡 乙訓郡 紀伊郡
 一人

第四區
 宇治郡 久世郡 綴喜郡 相樂郡
 一人

第五區
 南桑田郡 北桑田郡 船井郡
 一人

第六區
 天田郡 何鹿郡 加佐郡
 一人

第七區
 與謝郡 中野郡 竹野郡 熊野郡
 一人

大阪府
 第一區 第二區 第三區 第四區 第五區 第六區 第七區
 西區 東區 北區 南區 堺市 西成郡 東成郡
 三人 二人 三人 三人 一人 二人 二人

第五區
 高座郡 愛甲郡 津久井郡
 二人

第六區
 中郡
 一人

第七區
 足柄上郡 足柄下郡
 一人

神奈川縣
 第八區 中河內郡 一人
 第九區 南河內郡 一人
 第十區 泉北郡 一人
 第十一區 泉南郡 一人

第一區 橫濱市 三人

第二區 橫須賀市 一人

第三區 久良岐郡 橋樹郡 都筑郡 一人

衆議院議員選舉法 別表(大阪、神奈川、兵庫)

兵庫縣

第一區 神戸市 三人

第二區 姫路市 一人

第三區 尼崎市 一人

第四區 武庫郡 一人

第五區 川邊郡 有馬郡 一人

第六區	第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區
多紀郡	明石郡	加古郡	加東郡	飾磨郡	揖保郡
永上郡	美囊郡	印南郡	加西郡	神崎郡	赤穂郡
一	一	一	一	一	二
人	人	人	人	人	人

第十二區	第十三區	第十四區	長崎縣	
城崎郡	出石郡	津名郡	第一區	第二區
美方郡	養父郡	三原郡	長崎市	佐世保市
一	一	二	一	一
人	人	人	人	人

第五區	第六區	第七區
北松浦郡	南松浦郡	對馬
一	一	一
人	人	人

新潟縣

第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區
新潟市	長岡市	高田市	西蒲原郡	北蒲原郡	東蒲原郡
一	一	一	一	二	二
人	人	人	人	人	人

衆議院議員選舉法 別表(長崎、新潟、埼玉)

第七區	第八區	第九區	第十區	第十一區	第十二區	第十三區	第一區
南蒲原郡	三島郡	刈羽郡	北魚沼郡	中魚沼郡	出石郡	佐渡	北足立郡
古志郡	三島郡	刈羽郡	南魚沼郡	東頸城郡	中頸城郡	西頸城郡	北足立郡
二	一	一	一	一	二	一	二
人	人	人	人	人	人	人	人

埼玉縣

第二區	入間郡	二人
第三區	比企郡 大里郡	二人
第四區	南埼玉郡 北葛飾郡	二人
第五區	北埼玉郡	一人
第六區	兒玉郡 秩父郡	一人
群馬縣		
第一區	前橋市	一人
第二區	高崎市	一人
第三區	新田郡 山田郡 邑樂郡	二人

第四區	群馬郡 吾妻郡 碓氷郡	二人
第五區	佐波郡 利根郡 勢多郡	二人
第六區	北甘樂郡 多野郡	一人
千葉縣		
第一區	千葉郡	一人
第二區	印旛郡	一人
第三區	東葛飾郡	一人
第四區	香取郡	一人

第五區	海上郡	一人
第六區	山武郡 長生郡	二人
第七區	夷隅郡	一人
第八區	市原郡 君津郡	二人
第九區	安房郡	一人
茨城縣		
第一區	水戸市	一人
第二區	東茨城郡	一人
第三區	那珂郡	一人
第四區	久慈郡 多賀郡	二人

第五區	鹿島郡 行方郡	一人
第六區	新治郡	一人
第七區	西茨城郡 眞壁郡	一人
第八區	結城郡 筑波郡	一人
第九區	稻敷郡 北相馬郡	一人
第十區	猿島郡	一人
栃木縣		
第一區	宇都宮市	一人
第二區	河內郡	一人

衆議院議員選舉法 別表(群馬、千葉茨城、栃木)

第三區	芳賀郡	一人
第四區	下都賀郡	二人
第五區	上都賀郡	一人
第六區	安蘇郡 足利郡	一人
第七區	鹽谷郡 那須郡	二人
奈良縣		
第一區	奈良市	一人
第二區	添上郡 山邊郡 生駒郡	一人
第三區	磯城郡 宇陀郡	一人

第四區	北葛城郡 南葛城郡 高市郡	一人
第五區	宇智郡 吉野郡	一人
三重縣		
第一區	津市	一人
第二區	四日市市	一人
第三區	宇治山田市	一人
第四區	安濃郡 一志郡	一人
第五區	鈴鹿郡 河藝郡 三重郡	二人

第六區	員辨郡 桑名郡	一人
第七區	飯南郡 多氣郡	一人
第八區	度會郡 志摩郡	一人
第九區	北牟婁郡 南牟婁郡	一人
第十區	阿山郡 名賀郡	一人
愛知縣		
第一區	名古屋市	三人
第二區	豊橋市	一人
第三區	岡崎市	一人

第四區	愛知郡 西春日井郡	二人
第五區	東春日井郡	一人
第六區	丹羽郡 葉栗郡	一人
第七區	中島郡	一人
第八區	海部郡	一人
第九區	知多郡	一人
第十區	碧海郡	一人
第十一區	幡豆郡 額田郡 西加茂郡 東加茂郡	二人

第十二區 北設樂郡 南設樂郡 寶飯郡 一 人

第十三區 渥美郡 八名郡 一 人

静岡縣

第一區 静岡市 一 人

第二區 濱松市 一 人

第三區 安倍郡 一 人

第四區 富士郡 富原郡 一 人

第五區 駿東郡 一 人

第六區 志太郡 一 人

第七區 榛原郡 小笠原郡 二 人

第八區 周智郡 磐田郡 一 人

第九區 濱名郡 引佐郡 二 人

第十區 賀茂郡 田方郡 二 人

山梨縣

第一區 甲府市 一 人

第二區 西山梨郡 東山梨郡 一 人

第三區 北巨摩郡 中巨摩郡 一 人

第四區 東八代郡 西八代郡 南巨摩郡 一 人

第五區 南都留郡 北都留郡 一 人

滋賀縣

第一區 大津市 一 人

第二區 滋賀郡 高島郡 一 人

第三區 甲賀郡 野洲郡 栗太郡 一 人

第四區 蒲生郡 神崎郡 一 人

岐阜縣

第一區 岐阜市 一 人

第二區 大垣市 一 人

第三區 稻葉郡 山縣郡 一 人

第四區 羽島郡 海津郡 養老郡 不破郡 安八郡 二 人

衆議院議員選舉法 別表(静岡、山梨、滋賀、岐阜)

長野縣

第五區	本揖	一	人
第六區	武儀	一	人
第七區	可加	一	人
第八區	土岐	一	人
第九區	大野	一	人
第一區	長野市	一	人
第二區	松本市	一	人

第三區	上水內郡	一	人
第四區	下高井郡	一	人
第五區	更級郡	一	人
第六區	小縣郡	一	人
第七區	東筑摩郡	二	人
第八區	南安曇郡	一	人
第九區	南佐久郡	一	人
第十區	諏訪郡	一	人

宮城縣

第十一區	上伊那郡	一	人
第十二區	下伊那郡	一	人
第一區	仙臺市	一	人
第二區	宮城郡	一	人
第三區	刈田郡	一	人
第四區	遠田郡	一	人

福島縣

第五區	栗原郡	一	人
第六區	登米郡	一	人
第七區	牡鹿郡	一	人
第一區	福島市	一	人
第二區	若松市	一	人
第三區	信夫郡	二	人
第四區	安積郡	一	人

衆議院議員選舉法 別表(長野、宮城、福島)

第五區	田川郡	一人
第六區	石川郡 岩瀨郡 東白川郡 西白河郡	一人
第七區	南會津郡 北會津郡 大沼郡	一人
第八區	河沼郡 耶麻郡	一人
第九區	石城郡 雙葉郡	一人
第十區	相馬郡	一人
巖手縣 第一區	盛岡市	一人

第二區	巖手郡 紫波郡	一人
第三區	二戸郡 九戸郡	一人
第四區	下閉伊郡 上閉伊郡	一人
第五區	稗貫郡 和賀郡	一人
第六區	膽澤郡 江刺郡 氣仙郡	一人
第七區	西磐井郡 東磐井郡	一人
青森縣 第一區	青森市	一人

第二區	弘前市	一人
第三區	南津輕郡	一人
第四區	中津輕郡 西津輕郡	一人
第五區	東津輕郡 北津輕郡	一人
第六區	上北郡 下北郡	一人
第七區	三戸郡	一人
山形縣 第一區	山形市	一人
第二區	米澤市	一人

第三區	南村山郡 東村山郡 西村山郡	二人
第四區	東置賜郡 南置賜郡 西置賜郡	一人
第五區	東田川郡 西田川郡 飽海郡	三人
第六區	最上郡 北村山郡	一人
秋田縣 第一區	秋田市	一人
第二區	南秋田郡	一人

衆議院議員選舉法 別表(巖手、青森、山形、秋田)

第三區	山本郡	一人
第四區	北秋田郡 鹿角郡	一人
第五區	河邊郡 由利郡	一人
第六區	仙北郡	一人
第七區	平鹿郡 雄勝郡	二人
福井縣		
第一區	福井市	一人
第二區	足羽郡 大野郡 吉田郡 今立郡	二人

第三區	坂井郡	一人
第四區	丹生郡 南條郡	一人
第五區	敦賀郡 三方郡 遠敷郡 大飯郡	一人
石川縣		
第一區	金澤市	一人
第二區	石川郡	一人
第三區	能美郡 江沼郡	一人
第四區	河北郡 河咋郡 羽咋郡 鹿島郡	二人

第五區	鳳至郡 珠洲郡	一人
富山縣		
第一區	富山市	一人
第二區	高岡市	一人
第三區	上新川郡 中新川郡	一人
第四區	下新川郡	一人
第五區	婦負郡 東礪波郡 西礪波郡	二人
第六區	射水郡 氷見郡	一人

鳥取縣		
第一區	鳥取市	一人
第二區	岩美郡 八頭郡	一人
第三區	氣高郡 東伯郡	一人
第四區	西伯郡 日野郡	一人
島根縣		
第一區	松江市	一人
第二區	八束郡 能義郡	一人

衆議院議員選舉法 別表(福井、石川、富山、鳥取、島根)

廣島縣	第八區	英勝苦 田田田 郡郡郡	一	人
第一區	廣島市	廣島市	一	人
第二區	吳市	吳市	一	人
第三區	尾道市	尾道市	一	人
第四區	福山市	福山市	一	人
第五區	安藝郡	安藝郡	一	人
第六區	佐伯郡	佐伯郡	一	人
第七區	安佐郡 高田郡	安佐郡 高田郡	二	人

山口縣	第十三區	沼深 隈安 郡郡	一	人
第十二區	甲奴郡 神石郡	甲奴郡 神石郡	一	人
第十一區	比婆郡 雙三郡	比婆郡 雙三郡	一	人
第十區	世羅郡 御調郡	世羅郡 御調郡	一	人
第九區	豐田郡	豐田郡	一	人
第八區	賀茂郡	賀茂郡	一	人
山口縣	第一區	下關市	一	人
第二區	吉敷郡	吉敷郡	一	人

岡山縣	第三區	飯石郡 大原郡 仁多郡	二	人
第四區	安濃郡 邇摩郡 智智郡	安濃郡 邇摩郡 智智郡	一	人
第五區	那賀郡 美濃郡 鹿足郡	那賀郡 美濃郡 鹿足郡	一	人
第六區	隱岐郡	隱岐郡	一	人
岡山縣	第一區	岡山市	一	人
第二區	御津郡 兒島郡	御津郡 兒島郡	一	人

第三區	赤磐郡 和氣郡 邑久郡	赤磐郡 和氣郡 邑久郡	二	人
第四區	都窪郡 吉備郡	都窪郡 吉備郡	一	人
第五區	淺田郡 小田郡 後月郡	淺田郡 小田郡 後月郡	二	人
第六區	川上郡 上房郡 阿哲郡	川上郡 上房郡 阿哲郡	一	人
第七區	眞庭郡 久米郡	眞庭郡 久米郡	一	人

第三區	佐波郡	一人
第四區	美爾郡 厚狹郡	一人
第五區	阿武郡 大津郡	一人
第六區	豐浦郡	一人
第七區	都濃郡	一人
第八區	熊毛郡 大島郡	一人
第九區	玖珂郡	一人
和歌山縣		
第一區	和歌山市	一人
第二區	海草郡	一人

第三區	伊都郡 那賀郡 有田郡	二人
第四區	日高郡 西牟婁郡 東牟婁郡	二人
德島縣		
第一區	德島市	一人
第二區	名東郡 勝浦郡	一人
第三區	那賀郡 海部郡	一人
第四區	名波郡 阿波郡 麻植郡	一人

第五區	板野郡	一人
第六區	美馬郡 三好郡	一人
香川縣		
第一區	高松市	一人
第二區	九龜市	一人
第三區	香川郡 小豆郡	一人
第四區	大川郡 木田郡	一人
第五區	綾歌郡 仲多度郡	二人
第六區	三豐郡	一人
愛媛縣		
第一區	松山市	一人
第二區	溫泉郡 伊豫郡	二人
第三區	越智郡 周桑郡	二人
第四區	新居郡 宇摩郡	一人
第五區	上浮穴郡 喜多郡	一人
第六區	東宇和郡 西宇和郡	一人
第七區	北宇和郡 南宇和郡	一人

衆議院議員選舉法 別表(和歌山、德島、香川、愛媛)

高知縣

第一區	高知市	一人
第二區	土佐郡 吾川郡 長岡郡	二人
第三區	香美郡 安藝郡	一人
第四區	高岡郡	一人
第五區	幡多郡	一人
福岡縣		
第一區	福岡市	一人
第二區	久留米市	一人
第三區	門司市	一人

第四區	小倉市	一人
第五區	若松市	一人
第六區	八幡市	一人
第七區	大牟田市	一人
第八區	早良郡 糸島郡	一人
第九區	糟屋郡 宗像郡	一人
第十區	遠賀郡 鞍手郡 嘉穂郡	三人
第十一區	筑紫郡 軌倉郡	一人

大分縣

第十二區	三井郡 浮羽郡	一人
第十三區	三潞郡	一人
第十四區	八女郡	一人
第十五區	山門郡 三池郡	一人
第十六區	企救郡 田川郡	一人
第十七區	京都郡 築上郡	一人
大分縣		
第一區	大分市	一人
第二區	大分郡	一人

佐賀縣

第三區	北海郡 南海郡	一人
第四區	大野郡 直入郡	一人
第五區	玖珠郡 日田郡	一人
第六區	西國郡 東國郡	一人
第七區	下毛郡 宇佐郡 速見郡	二人
佐賀縣		
第一區	佐賀市	一人
第二區	佐賀郡	一人

衆議院議員選舉法 別表(高知、福岡、大分、佐賀)

第三區	神埼郡 三養基郡	一人	第五區	上益城郡 下益城郡 宇土郡	二人
第四區	小城郡 杵島郡 藤津郡	二人	第六區	八代郡 葦北郡 球磨郡	二人
第五區	東松浦郡 西松浦郡	一人	第七區	天草郡	一人
熊本縣					
第一區	熊本市	一人	宮崎縣		
第二區	飽託郡	一人	第一區	宮崎郡 兒湯郡 南那珂郡	二人
第三區	玉名郡	一人	第二區	北諸縣郡 西諸縣郡 東諸縣郡	二人
第四區	鹿本郡 菊池郡 阿蘇郡	二人			

第三區	東白杵郡 西白杵郡	一人	第七區	伊佐郡 始良郡 贈啖郡	二人
鹿兒島縣					
第一區	鹿兒島市	一人	第八區	大島	一人
第二區	鹿兒島郡	一人	沖繩縣		
第三區	揖宿郡 川邊郡	二人	第一區	那霸區	一人
第四區	日置郡	一人	第二區	島尻郡 宮古郡 八重山郡	二人
第五區	薩摩郡 出水郡	二人	第三區	首里郡 中頭郡	一人
第六區	熊毛郡 肝屬郡	一人	第四區	國頭郡	一人
北海道廳					
			第一區	札幌區	一人

衆議院議員選舉法 別表(熊本、宮崎、鹿兒島、沖繩、北海道)

第二區	小樽區	一人	第九區	網走支廳管内	一人
第三區	函館區	一人	第十區	根室支廳管内	二人
第四區	旭川區	一人		釧路支廳管内	二人
第五區	室蘭區	一人	第十一區	河西支廳管内	一人
第六區	札幌支廳管内	一人		浦河支廳管内	一人
第七區	空知支廳管内	二人	第十二區	室蘭支廳管内	一人
第八區	留萌支廳管内	二人		函館支廳管内	一人
	上川支廳管内		後志支廳管内	二人	
	宗谷支廳管内				

本表ハ十年間ハ之ヲ更正セス

附則

本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ニ關シ第十八條乃至第二十條第二十四條第二十六條第二十七條ニ規定スル期日又ハ期間ニ依リ難キトキハ勅令ヲ以テ別ニ其ノ期日又ハ期間ヲ定ム但シ其ノ選舉人名簿ハ次ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

○衆議院議員選舉法施行令(明治三十四年勅令第百八十六號、改正
四十四年第一三五號、大正九年第三七號)

第一條 衆議院議員選舉法第二條ニ依リ市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケ又ハ數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設クルコトヲ要スルトキハ地方長官之ヲ定メ管内ニ告示スヘシ

第二條 二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル
一 選舉人名簿ハ每投票區各別ニ之ヲ調製スヘシ

二 各投票區ニ於ケル投票管理者ハ市ニ在リテハ地方長官、町村ニ在リテハ郡長ニ於テ官吏又ハ吏員ノ中ニ就キ之ヲ指名ス此ノ場合ニ於テハ投票管理者ノ内一名ハ市町村長、市町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ要ス

三 市町村長ハ選舉前選舉人名簿ヲ各投票管理者ニ送付スヘシ

第三條 數町村ノ區域ニ依リ一投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ左ノ規定ニ依ル

一 投票管理者ハ郡長ニ於テ關係町村長、町村長故障アルトキハ其ノ職務ヲ行フ者ノ中ニ就キ之ヲ指名ス

二 町村長ハ選舉前選舉人名簿ヲ投票管理者ニ送付スヘシ

第四條 選舉人ノ年齢ハ選舉人名簿調製ノ期日ニ依リ被選舉人ノ年齢ハ選舉ノ期日ニ依リ之ヲ算定ス

第四條ノ二 選舉人名簿調製期日後選舉人其ノ投票區域外ニ住所ヲ移シタル場合ニ於テハ前住所地ノ投票所ニ於テ投票ヲ爲スヘシ

第五條 郡市町村ノ境界變更アリタル爲選舉人名簿ニ異動ヲ生シタルトキハ郡市長ニ在リテハ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル郡市ノ郡市長ニ送付シ町村長ニ在リテハ其ノ管理ニ屬スル選舉人名簿中異動ニ係ル部分ヲ新ニ屬シタル町村ノ町村長ニ送付シ同時ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

町村長ニ於テ選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ郡長ニ報告スヘシ

市町村ノ廢置分合アリタル爲選舉人名簿ノ引繼ヲ要スルトキハ本條ノ例ニ依ル

第六條 前條ニ依リ郡長ニ於テ市長ヨリ選舉人名簿ノ送付ヲ受ケタルト

キハ直ニ其ノ副本ヲ調製シ關係町村長ニ送付スヘシ

第七條 選舉人名簿縦覧ノ場所ハ郡長及市町村長ニ於テ縦覧期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ告ホスヘシ

第八條 選舉人名簿其ノ他選舉ニ關スル書類ハ使用ノ時期ヲ經過スルモ選舉若ハ當選ノ效力確定セサル間ハ之ヲ保存スルコトヲ要ス

市町村ニ於テ二箇以上ノ投票區ヲ設ケタル場合ニ於テハ投票管理者ノ保存スヘキ書類ハ市町村長ニ於テ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スルコトヲ要ス

第九條 郡市長ニ於テ投票立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其ノ住所氏名ヲ投票管理者ニ通知スヘシ

第十條 投票管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ投票所入場券及到着番號札ヲ選舉人ニ交付スルコトヲ得

第十一條 投票記載ノ場所ハ選舉人ヲシテ他ノ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正ノ手段ヲ用ウルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十二條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第十三條 投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ投票所ニ參集シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虚ナルコトヲ示シタル後内蓋ヲ鎖スヘシ

第十四條 投票用紙ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選舉人ヲシテ其ノ住所氏名ヲ自稱セシメ選舉人名簿ニ對照シタル後之ヲ交付スヘシ

第十五條 選舉人誤テ投票ノ用紙又ハ封筒ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 投票ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選舉人自ラ之ヲ
投函スヘシ

第十七條 投票ヲ爲サムトスル選舉人ヲシテ本人ナル旨ノ宣言ヲ爲サシ
ムル必要アルトキハ投票管理者ハ投票立會人ノ面前ニ於テ之ヲ宣言セ
シメ投票所ノ事務ニ従事スル者ヲシテ之ヲ筆記セシメ選舉人ニ讀聞カ
セ選舉人ヲシテ之ニ署名セシムヘシ

前項ノ宣言書ハ之ヲ投票録ニ添附スヘシ

第十八條 選舉人ニシテ投票前投票所外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタ
ルトキハ投票管理者ハ投票用紙ヲ取上クヘシ

第十九條 削除

第二十條 投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ投票函ノ内蓋ノ投票口及
外蓋ヲ鎖シ其ノ内蓋ノ鑰ハ投票函ヲ送致スヘキ投票立會人之ヲ保管シ

外蓋ノ鑰ハ投票管理者之ヲ保管スヘシ

第二十一條 地方長官ハ衆議院議員選舉法第四十四條ニ依リ投票期日ヲ
定メタルトキハ直ニ選舉長及關係郡市長ニ之ヲ通知スヘシ

郡市長ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ更ニ衆議院議員選舉法第三
十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十二條 地方長官ニ於テ選舉立會人ヲ選任シタルトキハ同時ニ其ノ
住所氏名ヲ選舉長ニ通知スヘシ

第二十二條ノ二 一選舉區數郡市ニ涉ルトキハ郡長ハ選舉會開會前選舉
人名簿ヲ選舉長ニ送付スヘシ

第二十三條 投票ヲ點檢スルトキハ選舉長又ハ選舉事務ニ従事スル者ニ
於テ每票記載ノ氏名ヲ朗讀シ選舉事務ニ従事スル者二名ヲシテ各別ニ
同一被選舉人ノ得票ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ

第二十四條 投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ選舉長ハ各被選舉人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ但シ一選舉區數郡市ニ涉ル場合ニ於テハ各被選舉人ノ各郡市別得票數ヲ朗讀シ終ニ其ノ得票總數ヲ朗讀スヘシ

第二十五條 選舉長ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ選舉立會人ト共ニ封印ノ上之ヲ保存スヘシ

不受理ノ決定アリタル投票ハ其ノ封筒ト共ニ前項ノ例ニ依リ之ヲ保存スヘシ

第二十六條 選舉長ハ衆議院議員選舉法第七十一條ノ報告ヲ爲シタルトキハ投票管理者及郡長ヨリ送付シタル選舉人名簿ヲ關係郡市町村長ニ返付スヘシ

第二十七條 削除

第二十八條 地方長官ハ衆議院議員選舉法第六十二條ニ依リ選舉會ノ期

日ヲ定メタルトキハ更ニ同法第五十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條ノ二 當選人衆議院議員選舉法第七十三條ノ期間内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲ササルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告スヘシ

第二十九條 選舉人名簿、投票ノ用紙及封筒並投票函ノ調製ニ要スル費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十條 地方長官、選舉長又ハ投票管理者ニ於テ選舉事務ノ爲要スル費用及選舉會場又ハ投票所ニ要スル費用ハ當該行政廳ノ經費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十一條 前條ノ當該行政廳ニ以上アル場合ニ於テハ其ノ支辨スヘキ費用ハ當該行政廳ニ之ヲ平分スヘシ此ノ場合ニ於テ當該行政廳ノ經費カ同一經濟ニ屬スルトキハ一行政廳ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ

第三十二條 投票立會人及選舉立會人ニハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ職務ノ爲要スル費用ヲ給スルコトヲ得

前項ノ費用ハ府縣費及北海道地方費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三十三條 衆議院議員選舉法ニ於ケル直接國稅ノ種類左ノ如シ

- 一 地租
- 二 所得稅 所得稅法第三條第一項第二種ノ所得中無記名債券ノ所得ニ係ル所得稅ヲ除ク
- 三 營業稅
- 四 賣藥營業稅
- 五 鑛業稅
- 六 砂鑛區稅

第三十四條 衆議院議員選舉法第一條ノ別表ニ於テ獨立ノ選舉區ト爲シタルモノヲ除クノ外市ハ従前屬シタル選舉區ニ包含スルモノトス

第三十五條 削除

第三十六條 選舉長、投票管理者及其ノ代理者故障アルトキハ上級官廳

ハ臨時ニ官吏又ハ吏員ヲシテ其ノ事務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第三十七條 衆議院議員選舉法第三條及第百六條ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

附 則 (大正九年勅令第
三十七號附則)

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

○北海道衆議院議員選舉特例 (大正九年勅令
第三十八號)

第一條 衆議院議員選舉法第百十條ノ規定ニ依リ北海道應根室支廳管内國後郡、紗那郡、振別郡、擇捉郡及藥取郡ニ於ケル選舉ニ關シ第二條以

下ノ特例ヲ設ク

第二條 戸長選舉人名簿ヲ調製シタルトキハ十月十五日ノ期限ニ拘ラス
速ニ其ノ正本ノミヲ北海道廳支廳長ニ送付スヘシ

北海道廳支廳長戸長ヨリ送付シタル選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ其
ノ由ヲ選舉人名簿縦覽開始ノ前日迄ニ戸長ニ通知シ副本ヲ修正セシム
ヘシ

第三條 衆議院議員選舉法第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依ル申立ハ
戸長ニ對シ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ同法第二十三條ノ規定ヲ準
用ス

第四條 戸長ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査
シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナ
リト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ノ副本ヲ修正シ其ノ由ヲ申立人

及關係人ニ通知シ併セテ其ノ要領ヲ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラス
ト決定シタルトキハ申立人ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ規定ニ依リ名簿ノ副本ヲ修正シタルトキハ戸長ハ其ノ由ヲ北海
道廳支廳長ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ北海道廳支廳長ハ名簿ノ正
本ヲ修正スヘシ

第五條 衆議院議員選舉法第二十五條ノ規定ハ前條戸長ノ決定ニ關シ之
ヲ準用ス但シ七日トアルハ三十日トス

第六條 確定判決ニ依リ選舉人名簿ノ修正スヘキモノハ戸長ニ於テ直ニ
之ヲ修正シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

前條ノ規定ニ依リ名簿ノ副本ヲ修正シタルトキハ戸長ハ其ノ由ヲ北海
道廳支廳長ニ報告スヘシ此ノ場合ニ於テハ北海道廳支廳長ハ名簿ノ正
本ヲ修正スヘシ

第七條 衆議院議院選舉法第二十六條及第三十九條第二項乃至第四項ノ規定ハ之ヲ適用セス

第八條 投票管理者ハ投票ノ翌日投票所ニ於テ衆議院議員選舉法第五十四條、第五十五條第二項及第五十七條ノ例ニ依リ選舉長ニ屬スル職務ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ投票立會人ハ其ノ例ニ依リ選舉立會人ニ屬スル職務ヲ行フ

前項ノ規定ニ依リ投票ヲ點檢スル場合ニ於テハ衆議院議員選舉法施行令第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 前條ノ規定ニ依リ投票ノ點檢ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ各被選舉人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第十條 投票管理者ハ點檢濟ニ係ル投票ノ有效無效ヲ區別シ投票立會人ト共ニ之ニ封印ヲ施スヘシ

第十一條 投票ノ點檢終リタルトキハ投票管理者ハ直ニ各被選舉人ノ得票數ヲ選舉長ニ報告スヘシ

第十二條 投票管理者ハ前四條ノ規定ニ依ル手續ニ關スル顛末書ヲ作製シ投票立會人ト共ニ署名シ投票録及投票ト併セテ選舉長ニ之ヲ送致スヘシ

第十三條 衆議院議員選舉法第五十六條ノ規定ハ前五條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 投票管理者ハ豫メ第八條乃至第十二條ノ規定ニ依ル手續ヲ行フ日時ヲ告示スヘシ

第十五條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ第八條乃至第十二條若ハ前條ノ規定ニ依ル手續ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ之ヲ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ北海道廳支廳長ニ其ノ由ヲ届出ツヘシ此

ノ場合ニ於テハ北海道廳支廳長ハ更ニ期日ヲ定メ其ノ手續ヲ行ハシムヘシ

第十六條 選舉長ハ第十一條ノ規定ニ依ル報告及衆議院議員選舉法第四十二條又ハ第四十三條ノ規定ニ依リ送致セラレタル投票函ノ總テ到達シタル翌日選舉會ヲ開クヘシ

選舉長ハ前項ノ投票函ノ開票ニ付衆議院議員選舉法第五十五條ノ規定ニ依ル手續ヲ終リタルトキハ前項ノ報告ヲ調査シ每投票區得票者ノ氏名及其ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第十七條 第一條ノ郡ニ於ケル選舉ノ一部無效ト爲リ更ニ選舉ヲ行ヒタル場合ニ於ケル選舉會ニ於テハ其ノ選舉ニ係ル第十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ調査スヘシ

第十八條 第十一條ノ規定ニ依ル報告ノ書類及第十二條ノ規定ニ依リ送

致ヲ受ケタル顛末書ハ選舉長ニ於テ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第十二條ノ規定ニ依リ送致ヲ受ケタル投票ノ保存ハ封印ノ儘之ヲ爲スヘシ

第十九條 衆議院議員選舉法第九十九條ノ規定ハ投票立會人正當ノ事故ナクシテ第十條ヲ除クノ外本令ニ定メタル義務ヲ缺キタル場合ニ付之ヲ適用ス

附 則

本令ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

○衆議院議員選舉區ニ關スル法律（大正十年法律第六十四號）

郡ノ區域ニ變更アルモ衆議院議員ノ選舉ニ關シテハ仍從前ノ區域ニ依ル

但シ一選舉區内ニ於ケル郡ノ區域ニ變更アリタルトキ又ハ市町村ノ境界ノ變更アリタル爲郡ノ區域ニ變更アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 前項ノ規定ハ島司又ハ北海道廳支廳長ノ管轄區域ニ付之ヲ準用ス
 前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ町村ニ準スヘキモノハ之ヲ町村ト看做ス
 前三項ノ規定ニ依リ從前ノ區域ニ依ル選舉ニ關シ衆議院議員選舉法ノ規定ヲ適用シ難キ事項ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本法ハ郡制廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給

規則

(明治二十三年勅令第二百六十三號 改正二十四年第一七九號三〇年第三三五號 大正三年第一八六號 六年第二八號 九年第二一七號)

第一條 帝國議會議長副議長及議員ノ歳費ハ毎年七月ヨリ翌年六月ニ至

ル十二箇月ヲ以テ一歳トシテ計算ス

前項歳費年度中召集セラレタルニ拘ラス全ク之ニ應セサル者ニハ歳費ヲ支給セス

第二條 議長副議長及議員ノ歳費ハ其ノ前六箇月分ヲ帝國議會通常會開會ノ後三十日以内ニ其ノ後六箇月分ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス

七月以後臨時議會又ハ憲法第四十五條ノ議會開會ノ場合ニ於テハ其ノ閉會ノ當月マテノ分ノ歳費ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス六月以前開會シ七月以後ニ於テ閉會シタルトキ亦同シ

六月以前憲法第四十五條ノ議會開會ノ場合ニ於テハ六月マテノ分ノ歳費ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス

第三條 議長副議長ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス

帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則

議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル前月分マテ支給ス

第四條 貴族院勅任議員ノ歳費ハ其ノ勅任セラレタル当月分ヨリ支給ス
第五條 議長副議長及議員任期滿了、退職、除名ノ場合又ハ召集セラル、コトナクシテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ当月分マテヲ支給ス但シ議院法第十五條ノ規定ニ依リ議長副議長其ノ職務ヲ繼續スル場合ニ於テハ本令ノ適用ニ付テハ仍任期中ニ在ルモノト看做ス

第六條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議長副議長及議員ノ歳費ハ解散ヲ命セラレタル当月分マテヲ支給ス

第七條 衆議院解散ヲ命セラレタル後選舉セラレタル議員及補闕議員ノ歳費ハ其ノ選舉セラレタル当月分ヨリ支給ス

第八條 衆議院ノ議員貴族院ノ議員トナリタルトキ其ノ他如何ナル場合

ヲ問ハス歳費ハ同一人ニ對シ重複支給セス

第九條 官吏ニシテ議員タル者官吏ヲ罷メタルトキハ其ノ当月分ヨリ議員ニシテ官吏ニ任セラレタル者仍議員タルトキハ其ノ当月分マテヲ支給ス

第十條 議長副議長及議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス官吏ニシテ議員タル者亦同シ

上京旅費ハ歳費ノ前半額ト歸郷旅費ハ歳費ノ後半額ト同時ニ之ヲ支給ス

臨時議會又ハ憲法第四十五條ノ議會開會ノ場合ニ於テハ旅費ハ其ノ都度之ヲ支給ス

議長副議長及議員召集ニ應シタル後衆議院解散ヲ命セラレタルトキ又ハ任期滿了シタルトキト雖歸郷旅費ヲ支給ス其ノ死亡ノ場合ニ於テハ

之ニ相當スル金額ヲ其ノ遺族ニ支給ス

第十一條 旅費ハ當選區ノ何地ニ在ルヲ問ハス其ノ住居地ヨリ直路ノ里程ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第十二條 議院ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居スル者ハ何地ノ議員タルヲ問ハス旅費ヲ支給セス

第十三條 鐵道旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰ノ割合ヲ以テ直路ノ行程ニ應シ日當ヲ支給ス但一日ノ行程ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第十四條 召集ニ應セサル議員ニハ事故ノ如何ヲ問ハス旅費ヲ支給セス

旅 費 表

鐵道	賃	船	賃	車馬賃	一日	當一日
上級運賃 通行稅ヲ含ム		上級運賃 通行稅及船賃ヲ含ム		一圓二十錢	十	五 四
一 鐵道五十哩水路五十海里以上ノ旅行ニシテ急行料金ヲ徴スル線路ニ依ル旅行ノ場 合ニ於テハ普通急行料金ヲ支給ス						
二 百哩以上ノ旅行ニシテ特別急行列車ノ運轉スル線路ニ依ル旅行ノ場ニ於テハ特別急行料金ヲ支給ス						

○貴族院令 (明治二十二年勅令第十一號、改正三八年第五八號、四年第九三號、大正七年第二二號)

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

- 一 皇族
- 二 公侯爵
- 三 伯子男爵各、其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者
 五 北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スルモノニシテ滿二十五歲ニ達シ各、其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅命ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯爵二十人以内、子爵及男爵各七十三人以内トシ通常選舉毎ニ勅命ヲ以テ之ヲ指定ス但シ各爵其ノ總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

前項ノ總數ハ議員數指定ノ際ニ於ケル數ニ依ル

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ
 前項議員ノ數ハ百二十五人ヲ超過スヘカラス

第六條 北海道各府縣ニ於テ滿三十歲以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タル、シ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅命ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有
 議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ

關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘシ 被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間 其ノ職ニ就クヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノノ外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議

決ヲ經ヘシ

○貴族院伯子男爵議員選舉規則(明治二十二年勅令第七十八號)

第一條 伯子男爵ヲ有スル成年以上ノ者ハ各々其ノ同爵者ノ貴族院議員ヲ選舉ス

第二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第三條 左ノ項ノ一ニ觸ルル者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

第四條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ選舉權ヲ行フコトヲ得ス及被選人タルコトヲ得ス

第五條 貴族院令第四條ニ依リ選ハルヘキ議員ノ數ハ選舉ヲ行フノ前勅命ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第六條 爵位局長官ハ選舉ノ期日ヨリ五十日前ニ選舉資格ヲ有スル伯子男爵ノ人名簿ヲ各別ニ 調製シ選舉資格ヲ有スル同爵者ニ配付シ三十日前ニ之ヲ確定シテ各選舉管理者ニ交付スヘシ